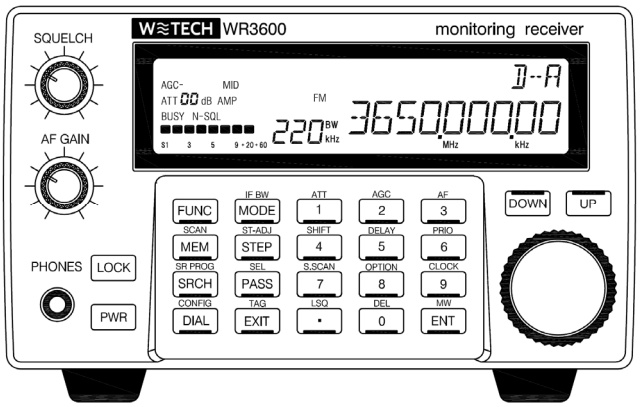
W≋TECH

取扱説明書

Monitoring Receiver

WR3600



株式会社ウエーブテック

N1A011

はじめに

このたびは WR3600 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、5kHz～3650MHz までの周波数を受信できる広帯域受信機です。本機の性能を十分に発揮させ、効果的にご使用いただくために、この取扱説明書をご使用前によくお読みください。また、この取扱説明書は大切に保管してください。

WR3600は、以下に示すような特徴を備えています。
特徴
①5kHz~3650MHzの全周波数範囲において、きわめて安定した受信性能、低内部スプリアス。
②低雑音性能（低位相ノイズ）、高ダイナミックレンジ。
③高速サーチ、スキャン動作。
④アルミダイカスト筐体、小型、軽量、低消費電力。
⑤既存システムの置き換えも対応可能な、各種インターフェイス機能。

単体の広帯域受信機として、またシステム組み込み用のRF受信ユニットとして、業務用途から個人用途まで幅広くお使いいただくことができます。

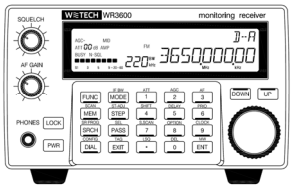
付属品

①WR3600 本体----------1
②AC アダプタ ----------1
③変換ケーブル ----------1
- AC アダプタ用

④DC コード ----------1
⑤簡易操作説明書（本書） ---1
⑥CD－ROM ----------1
- 取扱説明書
- 簡易操作説明書
- コマンド説明書

⑦保証書----------1

①WR3600 本体



②AC アダプタ

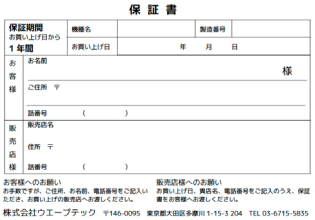
③変換ケーブル

④DC コード

⑤簡易操作説明書

⑥CD-ROM

⑦保証書


保 証 書

保証期間 お買い上げ日から 1年間	機種名		製造番号
	お買い上げ日	年 月 日	
お客様	お名前	様	
	ご住所 〒		
	話番号 ( )		
販売店様	販売店名		
	住所 〒		
	話番号 ( )		

お客様へのお願い
お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をご記入いただき、お買い上げの販売店へお渡しください。

販売店様へのお願い
お買い上げ日、販売名、電話番号をご記入のうえ、保証書をお客様へお渡しください。

株式会社ウエーブテック 〒146-0095 東京都大田区多摩川 1-15-3 204 TEL 03-6715-5835

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

この「安全上のご注意」には、本機を安全にお使いいただき、お使いになる人や周囲の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、お守りいただきたい事項を絵表示で示しています。

誤った使い方をしたときに生じることが想定される、危害や損害の程度を
「警告」、「注意」の２つに区分し、説明しています。

危害・損害の程度とその表示

⚠ **警告**	この表示を無視して、取扱いをすると「人が死亡または重傷を負うおそれが想定される内容」を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、取扱いをすると「人が傷害を負うおそれが想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

絵表示の例

	△　記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
	⃠　記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	●　記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警　告	
	煙・異臭・異音が出たり、落下・破損したときは、すぐ AC アダプタや電源プラグを抜いてください。 そのまま使用すると、火災や感電の原因になることがあります。 販売店または当社窓口にご相談ください。
	分解・修理・改造をしないでください。 火災、感電、故障の原因になることがあります。修理は販売店または当社窓口にご相談ください。
	指定の電源電圧以外で使用しないでください。 発火、火災の原因になることがあります。
	水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。 火災、感電、故障の原因になることがあります。
	AC アダプタや電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になることがあります。
	AC アダプタや電源プラグのほこりは定期的に清掃してください。 プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁が悪くなり、火災、感電の原因になることがあります。
	ぬれた手で、AC アダプタや電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因になることがあります。
	電源コード・電源プラグを破損するようなことはしないでください。 傷つける、加工する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど。 感電、火災の原因になることがあります。
	ヘッドホンやイヤホンを使用するときは、音量をさげてからプラグを接続してください。 聴力障害になることがあります。
	航空機内など使用が禁止された場所では電源を切ってください。 他の電子機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になることがあります。
	水をかけたり、ぬらしたりしないでください。 火災、感電、故障の原因になることがあります。
	雷が鳴り出したら、アンテナや電源プラグに触れないでください。 感電の原因になることがあります。

⚠注　意	
	湿気・湯気・油煙・ほこりの多い場所で使用しないでください。 火災、感電、故障の原因になることがあります。
	ぐらついた台の上や傾いたところ、振動の多い場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりしてけが、火災、故障の原因になることがあります。
	テレビやラジオの近くで使用しないでください。 電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
	清掃するときは、シンナーやベンジンを使用しないでください。 ケースが変質したり、塗装がはがれる原因になることがあります。 乾いたやわらかい布でふいてください。 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を少し含ませ強くしぼってからふいてください。
	極端に高温、低温になる場所には置かないでください。 変色、変形、火災、故障の原因になることがあります。 直射日光があたる場所 ヒータの噴出し口 クーラの噴出し口
	落としたり、強い衝撃を与えないでください。 けが、故障、破損の原因になることがあります。
	長期間使用しないときは AC アダプタや電源プラグを抜いてください。 旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため AC アダプタをコンセントから抜いてください。
	本機の内部に異物を入れないでください。 開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災、感電の原因になることがあります。
	AC アダプタや電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らないでください。 コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電波法上のご注意

電波法第 59 条で「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」と通信の秘密の保護に関して定められています。

目次

はじめに ---- 1
付属品 ---- 1
安全上のご注意 ---- 2
電波法上のご注意 ---- 4
目次 ---- 5

1 用語の説明 ---- 9

2 短縮表記の説明 ---- 11

3 各部の名称と機能 ---- 12
3.1 前面パネル ---- 12
3.2 後面パネル ---- 13

4 キー操作 ---- 15
4.1 キー操作の説明 ---- 15
4.2 長押しのあるキー ---- 15
4.3 ファンクションキー ---- 15
4.4 電源キー、ロックキー ---- 15
4.5 エンターキー ---- 15
4.6 動作モードキー、特殊キー ---- 16
4.7 テンキー ---- 17
4.8 アップキー、ダウンキー、[ダイヤル] ---- 18

5 ディスプレイ ---- 19
5.1 ディスプレイ表示説明 ---- 19

6 設置と接続 ---- 21
6.1 設置について ---- 21
6.2 電源の接続 ---- 21
6.2.1 付属の AC アダプタを使用する場合 ---- 21
6.2.2 付属の DC ケーブルを使用する場合 ---- 21
6.3 アンテナの接続 ---- 21

7 初期設定 ---- 22
7.1 電源を入れる ---- 22
7.2 電源を切る ---- 22
7.3 AF GAIN（音量）調整 ---- 22
7.4 SQUELCH（スケルチ） ---- 22
7.4.1 ノイズスケルチ調整 ---- 22
7.4.2 レベルスケルチ（LSQ）調整 ---- 23

8 システム環境設定 ---- 24
8.1 LAMP（ディスプレイ・ランプ）設定 ---- 25
8.2 BEEP（BEEP 音量）設定 ---- 25
8.3 IFOUT（IF 出力）設定 ---- 26
8.4 BPS（通信速度）設定 ---- 26

8.5 STD（基準信号）設定 ---- 26
8.6 S-M（メータ・ソース）設定 ---- 27
8.7 DISP（受信電波強度表示）設定 ---- 27

9 ダイヤル（VFO） ---- 28
9.1 受信周波数の設定 ---- 28
9.1.1 テンキーによる受信周波数設定 ---- 28
9.1.2［ダイヤル］による周波数設定 ---- 29
9.2 ステップ周波数の設定 ---- 30
9.2.1 テンキーによるステップ周波数設定 ---- 30
9.2.2［ダイヤル］によるステップ周波数設定 ---- 31
9.3 ステップアジャスト ---- 31
9.3.1 ステップアジャスト OFF ---- 31
9.3.2 ステップアジャスト ON ---- 31
9.4 復調モードの設定 ---- 32
9.5 IFBW（IF 帯域幅）の設定 ---- 33
9.6 ATT（アッテネータ）の設定 ---- 34
9.6.1 RF-ATT の設定 ---- 34
9.6.2 RF-AMP の設定 ---- 35
9.6.3 IF-GAIN の設定 ---- 35
9.7 AGC（自動利得制御）の設定 ---- 36
9.8 AF 環境設定 ---- 37
9.8.1 HPF（ハイパスフィルタ）の設定 ---- 38
9.8.2 LPF（ローパスフィルタ）の設定 ---- 38
9.8.3 DEMP（ディエンファシス）の設定 ---- 38
9.8.4 CW-P（CW ビート周波数）の設定 ---- 39
9.9 周波数 SHIFT ---- 40
9.9.1 SHIFT 周波数の設定 ---- 40
9.9.2 周波数 SHIFT の ON/OFF ---- 40
9.10 DELAY（ディレイ）時間の設定 ---- 41
9.11 メモリの書き込み ---- 42

10 ダイヤルサーチ（VCO サーチ） ---- 43
10.1 環境データ設定 ---- 44
10.2 パス周波数設定 ---- 45
10.3 パス周波数設定の解除 ---- 46
10.3.1 一括解除 ---- 47
10.3.2 個別解除 ---- 47

11 プログラムサーチ ---- 48
11.1 サーチデータ設定 ---- 49
11.1.1 バンク設定 ---- 50
11.1.2 下限周波数設定 ---- 50
11.1.3 上限周波数設定 ---- 51
11.1.4 ステップ周波数設定 ---- 51
11.1.5 復調モード設定 ---- 52
11.1.6 IFBW（IF 帯域幅）設定 ---- 52
11.1.7 AGC 設定 ---- 53

目次

11.2 環境データ設定 ---------- 54
11.2.1 PAUSE 時間設定 ---------- 55
11.2.2 バンクのリンク対象、対象外設定 ---------- 55
11.2.3 リンク ON/OFF 設定 ---------- 56
11.3 パス周波数設定 ---------- 56
11.4 サーチ設定内容の消去 ---------- 57
11.4.1 サーチデータ消去 ---------- 58
11.4.2 パス周波数設定の一括解除 ---------- 59
11.4.3 パス周波数設定の個別解除 ---------- 59

12 メモリリード ---------- 60
12.1 パスの設定 ---------- 60
12.2 セレクトの設定 ---------- 60
12.3 メモリ指定消去 ---------- 61
12.4 メモリー括消去、解除 ---------- 62
12.4.1 メモリ内容一括消去 ---------- 63
12.4.2 パス設定一括解除 ---------- 63
12.4.3 セレクト設定一括解除 ---------- 63

13 メモリスキャン ---------- 64
13.1 環境データ設定 ---------- 65
13.1.1 PAUSE 時間設定 ---------- 66
13.1.2 バンクのリンク対象、対象外設定 ---------- 66
13.1.3 リンク ON/OFF 設定 ---------- 67
13.2 パスの設定 ---------- 67
13.3 セレクトの設定 ---------- 67
13.4 メモリ指定消去 ---------- 67
13.5 メモリー括消去、解除 ---------- 67
13.5.1 パス設定一括解除 ---------- 67
13.5.2 セレクト設定一括解除 ---------- 67

14 セレクトスキャン ---------- 68

15 プライオリティ受信 ---------- 69
15.1 プライオリティチャンネル設定 ---------- 69
15.1.1 チャンネル内容設定 ---------- 70
15.1.2 インターバル設定 ---------- 70

16 オプション設定 ---------- 71
16.1 VI（音声反転）の設定 ---------- 72
16.2 TE（トーンエリミネータ）の設定 ---------- 72

17 タグ（名前） ---------- 73
17.1 タグ（名前）設定 ---------- 73

18 時計機能の設定 ---------- 74
18.1 時計の時刻設定 ---------- 76
18.2 ON TIMER の設定---------- 76
18.2.1 ON TIMER 起動時刻設定---------- 76
18.2.2 ON TIMER 音源設定 ---------- 77
18.2.3 ON TIMER 音量設定 ---------- 77
16.2.4 ON TIMER スケルチ設定---------- 78
18.3 OFF TIMER の設定---------- 79
18.4 SLEEP TIMER の設定 ---------- 79

19 起動時の、キーの二重操作 ---------- 80
19.1 ダイヤル（VFO）の初期化 ---------- 80
19.2 ファームウェア・バージョン表示 ---------- 81
19.3 ディスプレイ全点灯 ---------- 81

20 アフターサービス ---------- 82
21 定格 ---------- 83

1 用語の説明

用語の説明（1/2）

電源 ON/OFF	
待機（OFF）	電源が切れている状態。 •起動から待機に移行する場合は、電源を切るときの設定内容を記憶します。
起動（ON）	電源が入っている状態。 •待機から起動に移行する場合は、前回電源を切ったときの内容を呼び出します。
操作モード	
ローカル	本機前面パネルで操作をするモードです。 •パソコンからのリモート操作も有効になります。(ただし受信音量、ノイズスケルチを除く） この場合、後からの操作が有効になります。
リモート	パソコンからのシリアル通信で操作をするモードです。 •本機前面パネルからの操作は、[PWR]、[EXIT]、[ENT]を除き、無効になります。 •[EXIT]、[ENT]を操作すると、ローカルモードになり本機前面パネルからの操作ガ有効になります。 •[PWR]を操作して、電源を切ることができます。
動作モード	
ダイヤル(VFO)	周波数を入力したり､各種設定などほとんどの操作を行うことができる基本動作モードです。
ダイヤル(VFO)サーチ	全受信周波数範囲を、ステップ周波数間隔で電波を探す機能です。
プログラムサーチ	各サーチバンクに設定された､上限周波数と下限周波数の間をステップ周波数間隔で電波を探す機能です。 •バンク数　　：20 •バンク変更　　：テンキー「2 桁」で行います •パス周波数設定数：500（全バンク合計），100（1 バンク最大）
メモリリード	あらかじめ書き込みしておいた、メモリチャンネルを手動で読み出し受信する機能です。 •バンク変更　　：テンキー「1 桁」で行います。
メモリスキャン	あらかじめ書き込みしておいた､メモリチャンネルを自動で読み出し電波を探す機能です。
セレクトスキャン	セレクト設定されたメモリチャンネルのみをスキャンする機能です。 •セレクト設定は最大 100 で、超えた場合には古いものから順に上書きされます。
バンクリンク	サーチ､スキャン動作の場合､バンクを複数連ねてサーチまたはスキャンする機能です。
メモリ書き込み	受信中の設定内容をメモリチャンネルに記憶させることです。 •受信周波数、復調モード、IFBW、AGC、RF-ATT、RF-AMP、タグ（名前）など記憶します。
サーチ、スキャン 共通項目	•停止：スケルチが開いて受信音が聞こえている状態です。 •継続：スケルチが閉じて順次電波を探し続けている状態です。 •再開：スケルチ開から閉になり、ディレイ時間経過後次へ進むことです。 •停止中：パス、セレクト設定ができます。 •強制再開、方向変更：[UP]､[DOWN]､[ダイヤル］の操作で次へ進めることです。 •パス設定された周波数、メモリチャンネルはサーチ、スキャン対象から除外されます。
プライオリティ受信	プライオリティ専用チャンネルを、インターバル時間毎に優先受信する機能です。
復調モード	電波型式に合わせて、正しく受信音に変換するための機能です。 •FM/AM/USB/LSB/CW/AUTO があります。 •AUTO モードは、設定した受信周波数によってあらかじめ記憶しているデータテーブルから復調モード、IFBW、ステップ周波数その他を自動設定します。
BW、IFBW	IF フィルタの通過帯域幅のことです。 •2ndIF（10.7MHz)、3rdIF（455kHz）が対象です。
AGC	自動利得制御のことで、時定数の設定ができます。 •OFF/FAST/MID/SLOW が設定できます。

用語の説明（2/2）

RF-ATT RF-AMP	強力な電波を受信して、受信音が歪んで聞こえるような時に使用する機能です。 •RF-ATT：0dB/10dB/20dB/30dB/AUTO を設定できます。 AUTO は受信電波の強度に応じて自動で設定します •RF-AMP：ON/OFF を設定できます。 ※RF-ATT：1100MHz 未満で有効、RF-AMP：30MHz 未満で有効。
ミュート （MUTE)	ミュート ON ：受信音を聞こえないように制御することです。 ミュート OFF：受信音を聞こえるように制御することです。
ノイズスケルチ	受信電波の強度によって受信音のノイズ量がかわります、それを利用して •しきい値よりノイズが大きい場合：スケルチが閉じて受信音を消します。 •しきい値よりノイズが小さい場合：スケルチが開いて受信音を聞こえるように します。 •SQUELCH ツマミで調整します。
レベルスケルチ	受信電波の強度を表示する機能があります、それを利用して •しきい値より強度が小さい場合：スケルチが閉じて受信音を消します。 •しきい値より強度が大きい場合：ケルチが開いて受信音を聞こえるようにします。 •メニューへ移行して設定します。
ディレイ時間	スケルチが閉じてからサーチ、スキャンを再開するまでの待ち時間です。

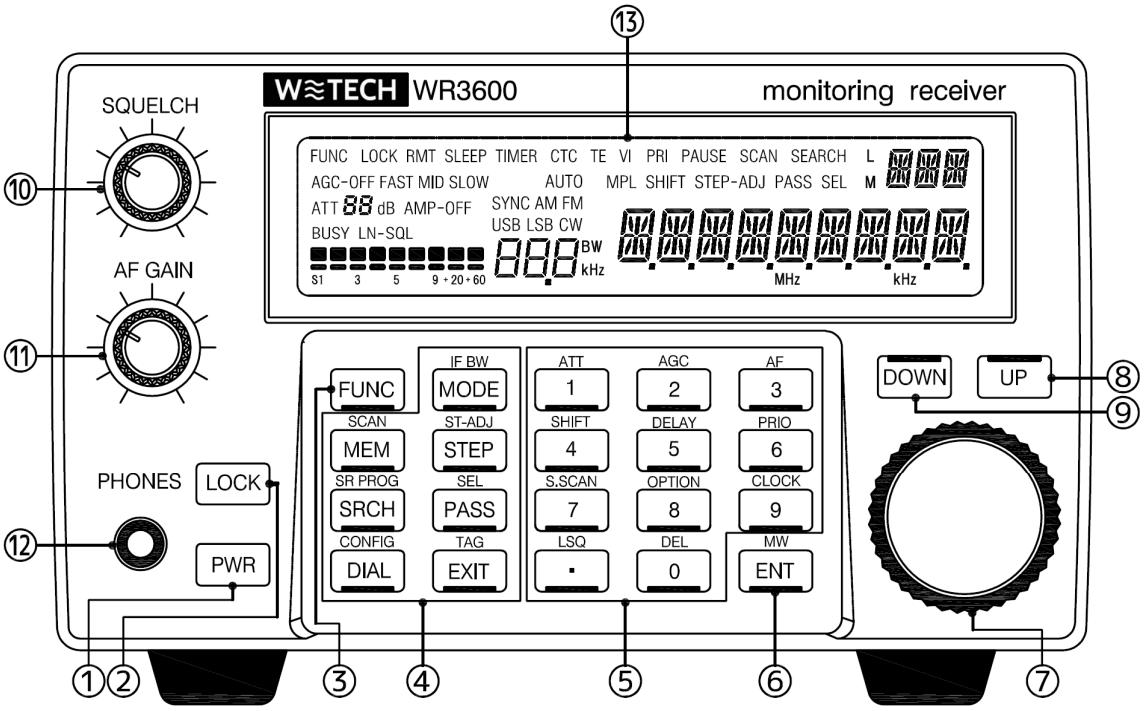
2 短縮表記の説明

各種設定メニュー内で、ディスプレイに表示される短縮表記の説明です。

MODE	復調モード
BW	IF フィルタ帯域幅 •2ndIF(10.7MHz)、3rdIF(455kHz)が対象です。
ST	ステップ周波数
ATT	RF-ATT（高周波部の減衰器）
AMP	RF-AMP（高周波部の増幅器）
AGC	自動利得制御 •2ndIF(10.7MHz)、3rdIF(455kHz)が対象です。
HPF	オーディオ段のハイパスフィルタ
LPF	オーディオ段のローパスフィルタ
DEMP	オーディオ段のディエンファシス
CW-P	CW 検波のビート周波数
LSQ	レベルスケルチ
LAMP	ディスプレイ・ランプ
BEEP	操作音
IFOUT	2ndIF(10.7MHz)、3rdIF(455kHz)の外部出力
BPS	シリアル通信速度
STD	PLL 回路の基準信号
S-M	S メータ
RSSI	受信電波の強度
AGC	自動利得制御
VI	音声反転
TE	トーンエリミネータ（空線信号キャンセラ）
DSR	ダイヤルサーチ
PSR	プログラムサーチ
bA	プログラムサーチデータを設定する場合の、バンク番号
LO	プログラムサーチデータを設定する場合の、下限周波数
HI	プログラムサーチデータを設定する場合の、上限周波数
MEM	メモリ
DEL	デリート
DBK	デリートバンク
BKL	バンクリンク
DIS	バンクリンク対象外
ENA	バンクリンク対象
No＊/No－ CH＊/CH－ DATA＊/DATA－	No：バンク番号、CH：メモリチャンネル、DATA：プログラムサーチデータ ＊：選択したバンクに書き込みメモリチャンネル、プログラムサーチデータ有り －：選択したバンクに書き込みメモリチャンネル、プログラムサーチデータ無し
PASS＊/PASS－	メモリーチャンネルのパス設定、サーチのパス周波数設定 ＊：選択したバンクにメモリチャンネルのパス設定、サーチのパス周波数設定有り －：選択したバンクにメモリチャンネルのパス設定、サーチのパス周波数設定無し
SEL＊/SEL－	メモリチャンネルのセレクト設定 ＊：選択したバンクにメモリチャンネルのセレクト設定有り －：選択したバンクにメモリチャンネルのセレクト設定無し

3 各部の名称と機能

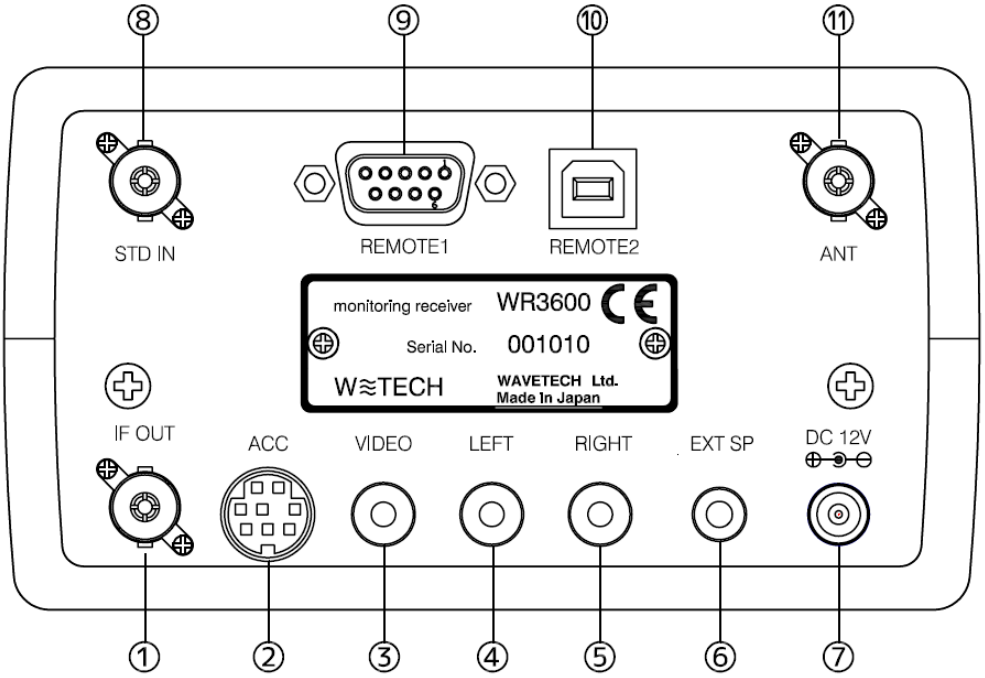
3.1 前面パネル



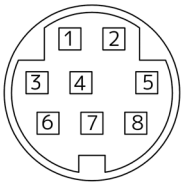
前面パネル

①	PWR（電源）キー	電源の ON/OFF をします。
②	LOCK（ロック）キー	各種キー及び［ダイヤル］の操作を有効、無効にします。
③	FUNC キー (ファンクションキー)	各種キーに、二重、三重の機能を割当てます。
④	動作モード、特殊キー	動作モードの切り替え、基本項目の設定、操作の取消しなどをします。
⑤	テンキー	受信周波数、ステップ周波数などを設定する場合、数値の入力などをします。
⑥	ENT（エンター）キー	各種の設定を確定します。
⑦	ダイヤル	受信周波数、メモリチャンネルなどを変更します。
⑧	UP（アップ）キー	受信周波数、メモリチャンネルなどを変更します。
⑨	DOWN（ダウン）キー	受信周波数、メモリチャンネルなどを変更します。
⑩	SQUELCH ツマミ (スケルチツマミ)	受信電波がないときに雑音を消す調整ツマミです。 •ノイズスケルチを調整します。
⑪	AF GAIN ツマミ (音量ツマミ)	受信音量を調整します。
⑫	PHONES (ヘッドホン端子)	ヘッドホンを接続する端子です。 •小型ジャックΦ3.5（ステレオ）。
⑬	ディスプレイ	受信周波数、信号強度及び各種の表示をします。

3.2 後面パネル



後面パネル（1/2）

①	IF OUT 端子	BNC　50Ω。 IF 信号を出力します。 •10.7MHz：帯域幅 10MHz •10.7MHz：10.7MHz フィルタ通過後 3.0kHz/6.0kHz/15kHz/30kHz/110kHz/220kHz •455kHz：455kHz フィルタ通過前
②	ACC 端子  本体コネクタを 結合側からみた図	丸型ミニチュアコネクタ（ミニ DIN） •TCS7927-5841177（WR3600 側ソケット）　メーカ：ホシデン

1	電源出力：12V（最大 100mA）
2	復調出力：フィルタなどは通過していません。 適合負荷：10KΩ以上。
3	復調出力：カットオフ 24kHz のローパスフィルタ通過。 適合負荷：10KΩ以上。
4	オーディオ出力 1：フィルタの処理はスピーカ出力と同じです。 出力レベル：-10dBu 適合負荷：10KΩ以上。
5	オーディオ出力 1：フィルタの処理はスピーカ出力と同じです。 出力レベル：-50dBu 適合負荷：100KΩ以上。
6	RSSI 出力：アンテナ入力に比例した電圧を出力します。
7	アンテナ切り替え信号：受信周波数 30MHz 未満で 0V。 受信周波数 30MHz 以上で 5V。
8	グランド

後面パネル（2/2）

③	VIDEO 端子	NC（無接続）。 オプションのため無接続です。 RCA ジャック。
④	LEFT 端子	ライン出力端子。 ステレオの場合はレフト出力です。 出力インピーダンス：1KΩ。 RCA ジャック。
⑤	RIGHT 端子	ライン出力端子。 ステレオの場合はライト出力です。 出力インピーダンス：1KΩ。 RCA ジャック。
⑥	EXT SP 端子	外部スピーカーを接続します。 小型ジャックΦ3.5（モノラル）
⑦	電源入力端子 DC 12V	電源を接続します。 電源範囲：DC11V～15V 。 標準：12V DC 電源ジャック（EIAJ-4）。
⑧	STD IN 端子	外部基準信号 10MHz（20MHz 可能）を接続します。 BNC　50Ω。
⑨	REMOTE1 端子	パソコンに接続して本機を制御します。 D－Sub9 ピンメス。
⑩	REMOTE2 端子	パソコンに接続して本機を制御します。 USB　Type B
⑪	ANT 端子	アンテナを接続します。 BNC　50Ω。

4 キー操作

4.1 キー操作の説明

短押し、長押し、2 個のキーを組み合わせた操作があります。

[FUNC]	FUNC	短押し	カギ括弧で囲まれた表記はキー操作を表し、キーを押して離す操作です。 キーマークも同様です。
[FUNC+L]	FUNC+L	長押し	[FUNC]キーの長押し操作で、約 0.6 秒以上押して離す操作です。
[FUNC]+[MODE]	FUNC + MODE	組合せ	[FUNC]キー操作に続いて、[MODE]キーを操作することです。

2.2 長押しのあるキー

長押しのあるのは 4 キーです、それ以外は短押しです。

[ＰＷＲ+L]	PWR+L	長押し	キーを 0.6 秒以上押して離す操作です。
[FUNC+L]	FUNC+L		
[UP+L]	UP+L		
[DOWN+L]	DOWN+L		

4.3 ファンクションキー

FUNC	他のキーに二重割当てしている機能を使う場合に操作するキーです。 ① 二重割当て機能は、該当キー上側パネルの捺印です。 ② 二重割当て機能を設定する場合、[FUNC] を操作すると、ディスプレイの “FUNC” が点灯し、続けて次のキーを操作すると “FUNC” は消灯し、二重割当て機能が実行されます。
FUNC+L	他のキーに三重割当てしている機能を使う場合に操作するキーです。 ① 三重割当て機能は、捺印がありません。 ② 三重割当て機能を設定する場合、[FUNC] を操作すると、ディスプレイの “FUNC” が点滅し、続けて次のキーを操作すると “FUNC” は消灯し、三重割当て機能が実行されます。

4.4 電源キー、ロックキー

本機の電源 ON/OFF、キー操作及び［ダイヤル］操作を有効、無効にします。

PWR	電源の ON をおこないます。
PWR+L	電源の OFF をおこないます。
LOCK	ロックの ON/OFF を交互に切り替えます。 ①ON ：各種キー及び［ダイヤル］の操作を無効にします。 [PWR]、[LOCK] はロック ON の場合も有効です。 ②OFF：各種キー及び［ダイヤル］の操作を有効にします。

4.5 エンターキー

各種操作の確定などをします。

ENT	テンキーで入力した周波数、各種メニュー内での操作など、全ての設定項目を確定します。 メニュー内の操作では、「仮確定」の場合があります。
FUNC + ENT	メモリ書き込みメニューへ移行します。

4.6 動作モードキー、特殊キー

各動作モードへの移行、復調モード設定、ステップ周波数設定、操作の取消しなどをします。

MEM	①メモリリードへ移行します。 ②メモリリードの場合は、メモリスキャンへ移行します。 ③メモリスキャンの場合は、メモリリードへ移行します。
FUNC + MEM	メモリスキャンへ移行します。
FUNC+L + MEM	メモリ環境設定メニューへ移行します。
SRCH	プログラムサーチへ移行します。
FUNC + SRCH	プログラムサーチデータ設定メニューへ移行します。
FUNC+L + SRCH	プログラムサーチ環境設定メニューへ移行します。
DIAL	①ダイヤル（VFO）を順次切り替えます。 →VFOA→VFOB→VFOC→VFOD→VFOE→VFOF→ ②ダイヤル以外の動作モードの場合は、直前のダイヤル（VFO）へ移行します。
FUNC + DIAL	システム環境設定メニューへ移行します。
FUNC+L + DIAL	ダイヤルサーチ（VFO サーチ）環境設定メニューへ移行します。
MODE	復調モード設定メニューへ移行します。
FUNC + MODE	IFBW 設定メニューへ移行します。
FUNC+L + MODE	復調モード AUTO の ON/OFF を交互に切り替えます。
STEP	ステップ周波数設定メニューへ移行します。
FUNC + STEP	ステップアジャスト ON/OFF を交互に切り替えます。
PASS	①ダイヤルサーチ停止中、プログラムサーチ停止中、メモリスキャン停止中 パスを設定して、サーチ、スキャンを再開します。 ②メモリリード、セレクトスキャン停止中 パスの設定、解除を交互に切り替えます。 ③メニュー内では、対応している項目の ON/OFF、DIS/ENA を交互に切り替えます。
FUNC + PASS	①メモリリード、メモリスキャン停止中 セレクト設定、解除を交互に切り替えます。 ②セレクトスキャン停止中 セレクト設定を解除し、次のセレクトチャンネルへ進みます。
EXIT	操作に伴う仮確定を取り消し、直前の画面に戻ります。
FUNC + EXIT	周波数とタグ（メモリチャンネル名前・サーチバンク名前）表示を交互に切り替えます。
FUNC+L + EXIT	タグ（名前）設定メニューへ移行します。

4.7 テンキー

受信周波数、各種データの入力、各種メニューへの移行などをします。

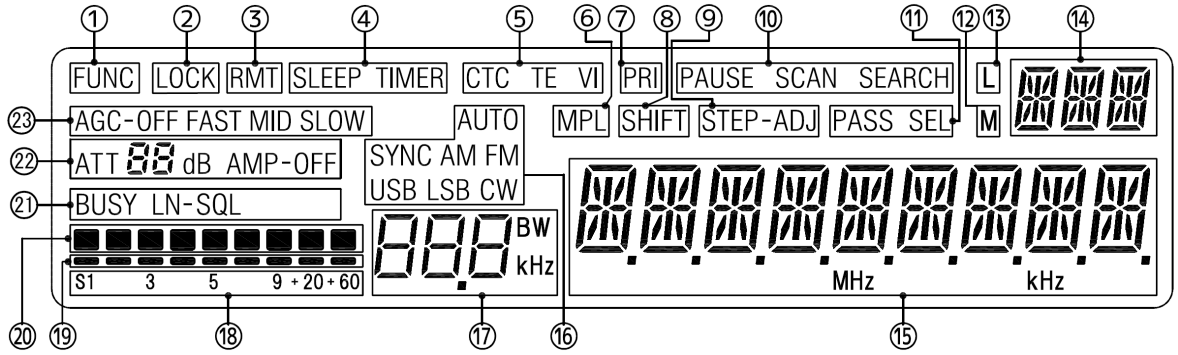
1	受信周波数などの数値“1”を入力します。
2	受信周波数などの数値“2”を入力します。
3	受信周波数などの数値“3”を入力します。
4	受信周波数などの数値“4”を入力します。
5	受信周波数などの数値“5”を入力します。
6	受信周波数などの数値“6”を入力します。
7	受信周波数などの数値“7”を入力します。
8	受信周波数などの数値“8”を入力します。
9	受信周波数などの数値“9”を入力します。
0	受信周波数などの数値“0”を入力します。
.	MHz の桁を入力します。
FUNC + 1	ATT 設定メニューへ移行します。
FUNC + 2	AGC 設定メニューへ移行します。
FUNC + 3	AF 環境設定メニューへ移行します。
FUNC + 4	周波数 SHIFT（シフト）の ON/OFF を交互に切り替えます。
FUNC+L + 4	SHIFT（シフト）周波数設定メニューへ移行します。
FUNC + 5	ディレイ時間設定メニューへ移行します。
FUNC + 6	プライオリティ受信の ON/OFF を交互に切り替えます。
FUNC+L + 6	プライオリティチャンネル設定メニューへ移行します。
FUNC + 7	セレクトスキャンへ移行します。
FUNC + 8	オプション設定メニューへ移行します。
FUNC + 9	周波数と時計の表示を交互に切り替えます。
FUNC+L + 9	時計設定メニューへ移行します。
FUNC + 0	メモリリード、メモリスキャン停止中の場合 メモリ指定消去メニューへ移行します。
FUNC+L + 0	①ダイヤル（VFO）、ダイヤルサーチ（VFO サーチ）の場合 ダイヤル（VFO）の消去メニューへ移行します。 ②メモリリード、メモリスキャン、レクトスキャンの場合 メモリー括消去メニューへ移行します。 ③プログラムサーチの場合 プログラムサーチー括消去メニューへ移行します。
FUNC + .	レベルスケルチの ON/OFF を交互に切り替えます。
FUNC+L + .	レベルスケルチ設定メニューへ移行します。

4.8 アップキー、ダウンキー、[ダイヤル]

受信周波数、メモリチャンネルなどを変更します。

UP	①受信周波数をアップ方向へ、ステップ周波数間隔で変更します。 ②サーチ、スキャンの場合は、サーチ、スキャンの方向をアップ方向へ変更します。 ③メモリチャンネルをアップ方向の、次チャンネルへ変更します。 ④メニュー内では、複数メニューがある場合メニューの移動をします。 ⑤メモリ書き込みメニューでは、アップ方向へ 10 チャンネル増加します。
UP+L	①ダイヤル（VFO）の場合は、アップ方向へダイヤルサーチを開始します。 ②メモリリードの場合は、アップ方向へメモリスキャンを開始します。
DOWN	①受信周波数をダウン方向へ、ステップ周波数間隔で変更します。 ②サーチ、スキャンの場合は、サーチ、スキャンの方向をダウン方向へ変更します。 ③メモリチャンネルをダウン方向の、次チャンネルへ変更します。 ④メニュー内では、複数メニューがある場合メニューの移動をします。 ⑤メモリ書き込みメニューでは、ダウン方向へ 10 チャンネル変更します。
DOWN+L	①ダイヤル（VFO）の場合は、ダウン方向へダイヤルサーチを開始します。 ②メモリリードの場合は、ダウン方向へメモリスキャンを開始します。
	①受信周波数をアップ方向へ、ステップ周波数間隔で変更します。 ②サーチ、スキャンの場合は、サーチ、スキャンの方向をアップ方向へ変更します。 ③メモリチャンネルをアップ方向の、次チャンネルへ変更します。 ④メニュー内では、設定項目の選択をします。 ⑤メモリ書き込みメニューでは、アップ方向へ 1 チャンネル変更します。
	①受信周波数をダウン方向へ、ステップ周波数間隔で変更します。 ②サーチ、スキャンの場合は、サーチ、スキャンの方向をダウン方向へ変更します。 ③メモリチャンネルをダウン方向の、次チャンネルへ変更します。 ④メニュー内では、設定項目の選択をします。 ⑤メモリ書き込みメニューでは、ダウン方向へ 1 チャンネル変更します。

5 ディスプレイ



5.1 ディスプレイ説明

ディスプレイ表示説明（1/2）

No	セグメント	説明
①	FUNC	二重機能割当て操作をする場合（短押し）：点灯 三重機能割当て操作をする場合（長押し）：点滅
②	LOCK	キーロックを ON に設定した場合、点灯します。
③	RMT	リモート操作の場合、点灯します。
④	SLEEP	スリープタイマが設定されている場合、点灯します。
	TIMER	オンタイマ、オフタイマが設定されている場合、点灯します。
⑤	CTC	CTCSS 機能が設定されている場合、点灯します。
	TE	トーンエリミネータ機能が設定されている場合、点灯します。
	VI	音声反転機能が設定されている場合、点灯します。
⑥	MPL	ステレオ放送を受信している場合、点灯します。
⑦	PRI	プライオリティ受信が設定されている場合、点灯します。 プライオリティ設定メニューに移行している場合、点滅します。
⑧	SHIFT	周波数シフト機能が動作している場合、点灯します。 周波数シフト設定メニューに移行している場合、点滅します。
⑨	STEP-ADJ	ステップアジャストが ON に設定されている場合、点灯します。
⑩	PAUSE	ポーズサーチ、ポーズスキャンが設定されている場合、点灯します。
	SCAN	メモリスキャン、セレクトスキャンの場合、点灯します。 スキャン環境設定メニューに移行している場合、点滅します。
	SEARCH	ダイヤルサーチ、プログラムサーチ場合、点灯します。 プログラムサーチ環境設定メニューに移行している場合、点滅します。
⑪	PASS	メモリリード、セレクトスキャンの場合 •パス設定されているメモリチャンネルを読み出している場合、点灯します。
	SEL	メモリリード、メモリスキャン、セレクトスキャンの場合 •セレクト設定されているメモリチャンネルを読み出している場合、点灯します。
⑫	M	メモリリード、メモリスキャン、セレクトスキャン場合、点灯します。
⑬	L	メモリスキャン、プログラムサーチの場合 •バンクのリンクが ON 設定されている場合、点灯します。

ディスプレイ表示説明（2/2）

⑭	888 メモリーチャンネル 表示部	①メモリリード、メモリスキャン、セレクトスキャンの場合 メモリチャンネル番号を表示します。 ②ダイヤル（VFO)、ダイヤルサーチ（VFO サーチ）の場合 ダイヤル（VFO）番号を表示します。 ③プログラムサーチの場合 サーチバンク番号を表示します。
⑮	888888888 周波数表示部	①受信周波数を表示します。 ②プログラムサーチ、メモリリード、メモリスキャン、セレクトスキャンの間合 受信周波数とタグ(名前)を切り替えて表示することができます。 ③各種メニュー移行中は、対応する設定項目を表示します。
⑯	AUTO	復調モードが AUTO に設定されている場合、点灯します。
	SYNC	復調モードが SAM/SUSB/SLSB に設定されている場合、点灯します。 オプションなので実装していません、設定できません。
	AM	復調モードが AM に設定されている場合、点灯します。
	FM	復調モードが FM に設定されている場合、点灯します。
	USB	復調モードが USB に設定されている場合、点灯します。
	LSB	復調モードが LSB に設定されている場合、点灯します。
	CW	復調モードが CW に設定されている場合、点灯します。
⑰	888 IFBW 表示部	IFBW 表示部です。 選択されている IFBW（IF 帯域幅）を表示します。
	BW kHz	常に点灯
⑱	S メータ目盛り	常に点灯します。
⑲	LSQ しきい値メータ	レベルスケルチが ON に設定されている場合、しきい値に合せて点灯します。
⑳	S メータ	受信電波の強度に応じて点灯します。
㉑	BUSY	MUTE が OFF で受信音が聞こえている場合、点灯します。
	L	レベルスケルチが ON に設定されている場合、点灯します。
	N	常に点灯します、ノイズスケルチが常時動作していることを表示しています。
	-SQL	常に点灯します。
㉒	ATT	常に点灯します。
	88	ATT の設定値を表示します。
	dB	常に点灯します。
	AMP	常に点灯します。
	-OFF	RF-AMP が OFF に設定されている場合、点灯します。
㉓	AGC－	常に点灯します。
	OFF	AGC が OFF に設定されている場合、点灯します。
	FAST	AGC がファーストに設定されている場合、点灯します。
	MID	AGC がミッドに設定されている場合、点灯します。
	SLOW	AGC をスローに設定されている場合、点灯します。

6 設置と接続

6.1 設置について

本機を設置する際は、直射日光の当たる場所、高温になる所、ほこりの多い所、への設置はさけてください。

6.2 電源の接続

6.2.1 付属の AC アダプタを使用する場合

AC アダプタを家庭用 AC 電源に接続して、AC アダプタからの DC 出力ケーブルを変換ケーブル経由で本機後面 DC12V 端子に接続します。

6.2.2 付属の DC ケーブルを使用する場合

外部直流安定化電源装置（DC12V）に接続します、電流は 1200mA 以上必要です。
極性（＋、－）は正しく接続してください。

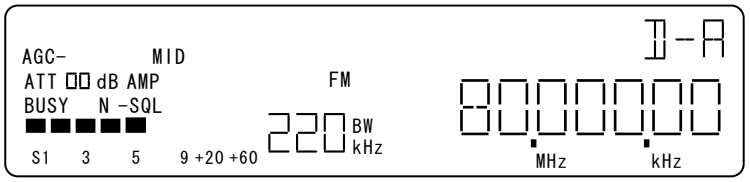
6.3 アンテナの接続

アンテナは本機の性能を十分に発揮させるために重要な部分です、受信する周波数に適したアンテナを接続してください。

7 初期設定

7.1 電源を入れる

①電源キー［PWR］で電源を入れます。この状態を「起動」するといいます。
②前回電源を切ったときの内容を呼び出します。
③本機を購入後、初めて電源を入れると次の初期画面が表示されます。



PWR

購入後、初めての電源 ON 画面

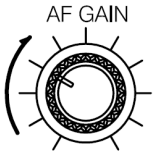
7.2 電源を切る

①電源キー［PWR+L］で電源を切ります。この状態を「待機」するといいます。
②電源を切るときの設定内容を記憶し、次回電源を入れたときは記憶した内容を呼び出します。

7.3 AF GAIN（音量）調整

AF GAIN ツマミを時計方向に回すと"ザー"という雑音が聞こえてきます、聞きやすい音量に調整してください。

時計方向に回すと
受信音が大きくなります



7.4 SQUELCH（スケルチ）

①受信音のミュートやサーチ、スキャン動作の停止、継続を制御します。
②ノイズスケルチ、レベルスケルチがあります。
③スケルチの表現

- スケルチが閉じる：受信電波の強度がスケルチのしきい値より弱く、ミュートが ON になり受信音が聞ない状態です。
- スケルチが開く　：受信電波の強度がスケルチのしきい値より強く、ミュートが OFF になり受信音が聞こえている状態です。
- スケルチが深い　：受信電波の強度が強い方向で、スケルチが開くように設定されている状態。
- スケルチが浅い　：受信電波の強度が弱い方向で、スケルチが開くように設定されている状態。

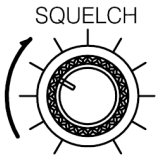
※ノイズスケルチは常時動作しています、レベルスケルチが ON の場合は両スケルチが開いた場合にスケルチは開きます。

7.4.1 ノイズスケルチ調整

① ミュートやサーチ、スキャン動作の停止、継続を制御する基本になります。通常スケルチと言うとノイズスケルチを示します。
② SQUELCH ツマミを時計方向にゆっくり回していくと、"ザー"という雑音が消えたり、聞こえたりする位置があります、その位置から目盛り線幅 3～5 個分時計方向に回して、"ザー"という雑音が安定して消えるように調整してください。

- スケルチが開いていると、ディスプレイのアイコン "BUSY" が点灯します。
- スケルチが閉じていると、ディスプレイのアイコン "BUSY" が消灯します。

時計方向に回すと
スケルチが深くなります



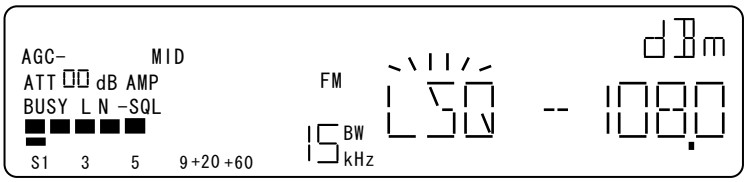
7.4.2 レベルスケルチ（LSQ）調整

①サーチ、スキャン動作で、あるレベル以上の受信電波を探す場合に使用すると便利な機能です。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

［FUNC+L］+［･］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 FUNC+L + ･



しきい値設定メニュ
しきい値を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

基本事項

①単位　　：dBm
②範囲　　：-120～0dBm
③ステップ　　：0.5dB
④しきい値選択　：[ダイヤル]
⑤しきい値メータ：しきい値に応じて点灯します。
⑥確定　　：[ENT]
⑦操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［･］で、メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、しきい値を選択します。
③［ENT］で、確定してメニューを終了します。
④ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

レベルスケルチしきい値メータ と レベルスケルチしきい値の関係

レベルスケルチしきい値メータ		レベルスケルチしきい値	備考
個数	目盛り	dBm	
1	S1	-108	
2	−	-105	
3	S3	-100	
4	−	-95	
5	S5	-90	
6	−	-80	
7	S9	-70	
8	+20	-50	
9	+60	-30	

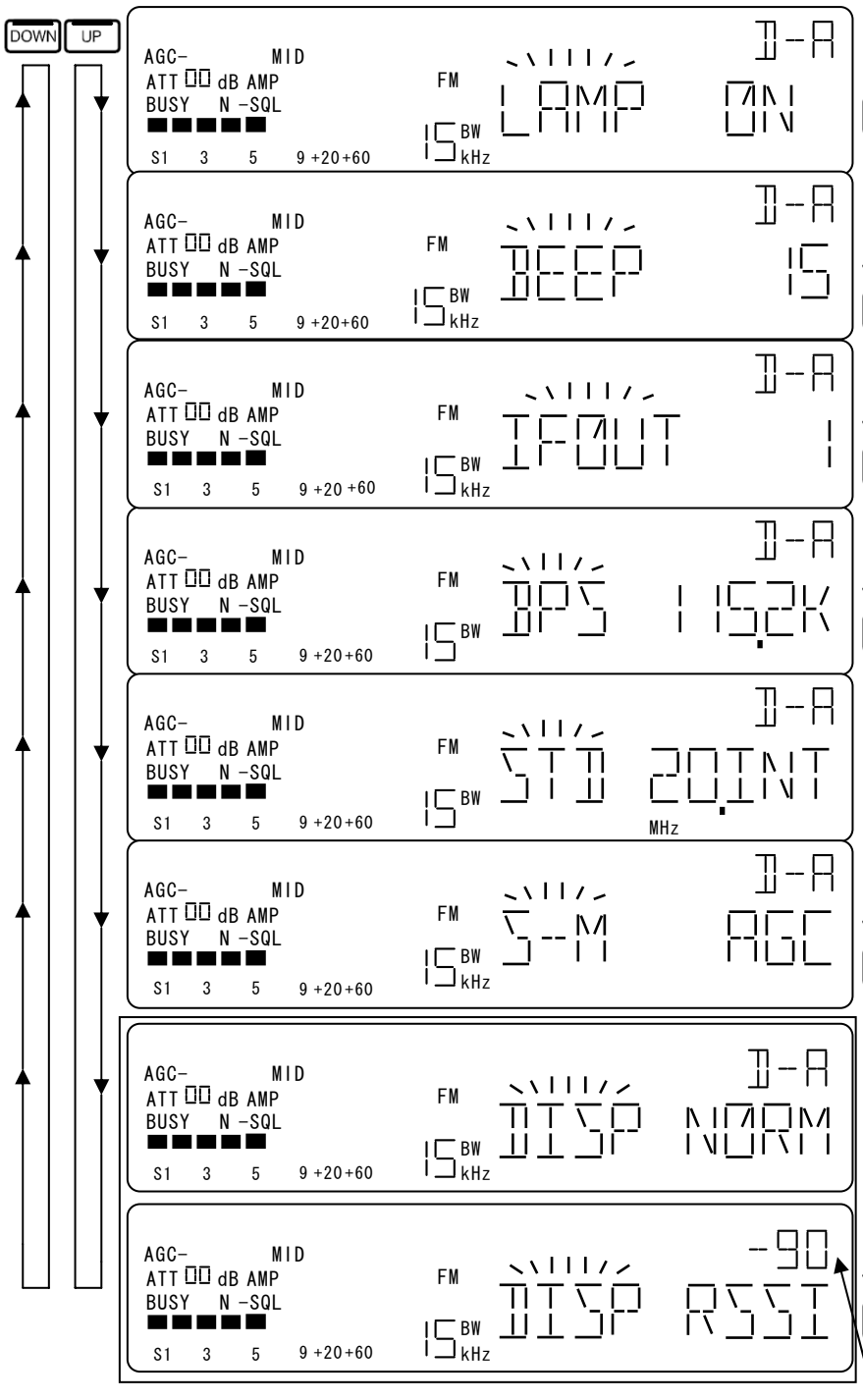
8 システム環境設定

①本機に共通する基本的な機能です。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC］＋［0］で、トップメニューへ移行します。
② トップメニューは、ディスプレイ・ランプ設定です。
③［UP］、［DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC + DIAL



ディスプレイ・ランプ設定メニュー
PASS ON/OFF の切り替え。
ENT 確定してメニュー終了。

BEEP 音量設定メニュー
PASS ON/OFF の切り替え。
BEEP 音量を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

IF 出力設定メニュー
IF 出力を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

通信速度設定メニュー
通信速度を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

基準信号設定メニュー
基準信号を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

S メータ・ソース設定メニュー
S メータ・ソーソを選択。
ENT 確定してメニュー終了。

受信電波強度表示設定メニュー
NORM を選択した画面
NORM/RSSI を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

RSSI を選択した画面
NORM/RSSI を選択。
ENT 確定してメニュー終了。
その時点の、受信電波の強度を表示しています。単位：dBm

8.1 LAMP（ディスプレイ・ランプ）設定

ディスプレイ照明の ON/OFF を切り替えます。

基本事項

①ON/OFF の切り替え：[PASS]
②確定　　：[ENT]
③操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［DIAL］で、ディスプレイ・ランプ設定メニューへ移行します。
②［PASS］で、ON/OFF を切り替えます。
③［UP]、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

8.2 BEEP（BEEP 音量）設定

キー操作の音量を設定します。

基本事項

①ON/OFF の切り替え　　：[PASS]
②OFF を選択している場合：[ダイヤル］操作は無効です。
③音量の選択　　：[ダイヤル]
④確定　　：[ENT]
⑤操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［DIAL］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、［DOWN］で BEEP 音量設定メニューへ移動します。
②［PASS］で、ON/OFF を切り替えます。
③［ダイヤル］で、音量を選択します。
④［UP]、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

8.3 IFOUT（IF 出力）設定

IF 出力のソースを設定します。

基本事項

①ソースの選択　:［ダイヤル］
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し　:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① ［FUNC］+［DIAL］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で IF 出力設定メニューへ移動します。
② ［ダイヤル］で、ソースを選択します。
③ ［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

8.4 BPS（通信速度）設定

シリアル通信の速度を設定します。

基本事項

①速度の選択 :［ダイヤル］
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し :［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① ［FUNC］+［DIAL］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で通信速度設定メニューへ移動します。
② ［ダイヤル］で、通信速度を選択します。
③ ［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

8.5 STD（基準信号）設定

局部発振器の基準信号の設定をします。

基本事項

①基準信号の選択 :［ダイヤル］
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し　:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① ［FUNC］+［DIAL］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で基準信号設定メニューへ移動します。
② ［ダイヤル］で、基準信号を選択します。
③ ［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

8.6 S-M（S メータ・ソース）設定

S メータ・ソースを RSSI 電圧、AGC 電圧から選択します。

基本事項

①ソースの選択：[ダイヤル]
②確定　　：[ENT]
③操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① [FUNC] + [DIAL] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で S メータ・ソース設定メニューへ移動します。
② [ダイヤル] で、S メータ・ソースを選択します。
③ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

8.7 DISP（受信電波強度表示）設定

①アンテナ入力端子の受信電波強度を表示しない、表示するを設定します。
②表示しないは “NORM”、表示するは “RSSI” を設定します。

基本事項

①NORM/RSSI の選択　：[ダイヤル]
②NORM を選択　　：受信電波強度を表示しません。
③RSSI を選択　　：受信電波強度を表示します。
④受信電波強度の単位：dBm
⑤確定　　：[ENT]
⑥操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① [FUNC] + [DIAL] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で受信電波強度表示設定メニューへ移動します。
② [ダイヤル] で、NORM/RSSI を選択します。
③ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

9 ダイヤル（VFO）

本機の基本となる動作モードです、ほとんどの操作ができます。

9.1 受信周波数の設定

受信周波数の設定は、テンキーによる直接設定と［ダイヤル］によるチューニングがあります。

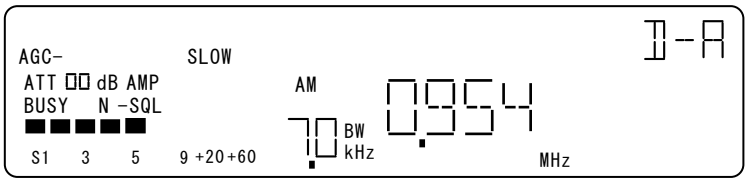
9.1.1 テンキーによる受信周波数設定

基本事項

①最小入力桁　：10Hz
②単位　　：MHz
③単位の入力　：[・]
④入力の修正　：[UP]、左側へ 1 桁戻りその桁の再入力になります。
⑤確定　　：[ENT]
⑥操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消して受信周波数設定直前の画面に戻ります。

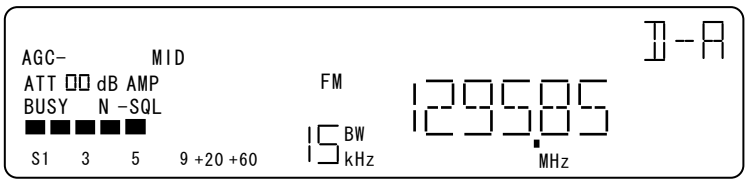
操作例

例 1　0.95400MHz の設定
　[0][・][9][5][4][ENT] の順で入力します。
　[・][9][5][4][ENT] の順で入力します。



受信周波数設定
テンキー　受信周波数の入力。
ENT　確定。

例 2　1295.85000MHz の設定
　[1][2][9][5][・][8][5][ENT] の順で入力します。



受信周波数設定
テンキー　受信周波数の入力。
ENT　確定。

操作

①テンキーで希望する受信周波数を上位桁から入力すると､それまで表示されていた周波数が消え、キー入力した数値が受信周波数表示部左端（1000MHz 桁）から表示されます。
②さらにキー入力すると、右側（10Hz 桁方向）へ順次表示されていきます。
③MHz 桁までを入力したら［・］で単位（MHz）を入力し、続けて 100kHz 以下の数値を入力します。
④入力した周波数は［ENT］で確定すると、所定の位置に表示されます。
⑤最初に［・］入力で､“0.”の表示になり、100kHz 以下の入力になります。
⑥キーの入力を間違えたときは、[UP]で戻り再入力します。
⑦操作を取り消す場合は、[EXIT]です。

9.1.2［ダイヤル］による受信周波数設定

基本事項

①最小設定桁　　：1Hz
②周波数の可変量：設定されている“ステップ周波数”です。

操作

①［ダイヤル］を時計方向に回すと、周波数がステップ周波数間隔でアップします。
②［ダイヤル］を反時計方向に回すと、周波数がステップ周波数間隔でダウンします。

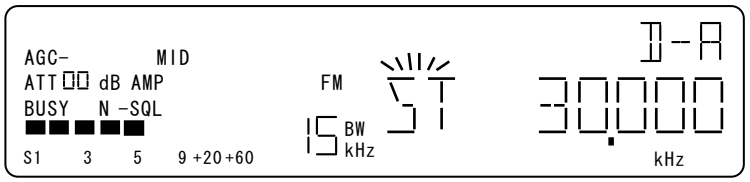
9.2 ステップ周波数の設定

①ステップ周波数の設定は、テンキーによる直接設定と［ダイヤル］による設定があります。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

［STEP］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 STEP



ステップ周波数設定メニュー
テンキー ステップ周波数の入力。
ステップ周波数を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

9.2.1 テンキーによるステップ周波数設定

基本事項

①最小入力桁　：1Hz
②入力単位　　：kHz
③単位の入力　：[・]
④入力の修正　：[UP]、左側へ 1 桁戻りその桁の再入力になります。
⑤確定　　　　：[ENT]
⑥操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してステップ周波数設定直前の画面に戻ります。

操作例

例 1　0.1kHz の設定
　　[0][・][1][ENT] の順で入力します。
　　[・][1][ENT] の順で入力します。

例 2　25kHz の設定
　　[2][5][・][ENT] の順で入力します。
　　[2][5][ENT] の順で入力します。

操作

①テンキーで希望するステップ周波数を上位桁から入力すると、それまで表示されていたステップ周波数が消え、キー入力した数値が周波数表示部 6 桁目から表示されます。
②さらにキー入力すると、右側へ順次表示されていきます。
③kHz 桁までを入力したら［・］で単位（kHz）を入力し、続けて 100Hz 以下の数値を入力します。100Hz 以下が “0” の場合は、 “0” 入力と［・］キーを省略することができます。
④入力した周波数は、[ENT] で確定されます。
⑤最初に［・］入力で、 “0.” の表示になり、100Hz 以下の入力になります。
⑥数値キーの入力を間違えた場合は、[UP] で戻り再入力します。
⑦操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

9.2.2［ダイヤル］によるステップ周波数設定

プリセット値から選択します。

基本事項

①プリセット値選択：［ダイヤル］
②確定　　：［ENT］
③操作取り消し　　：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※プリセット値
1Hz/10Hz/50Hz/100Hz/500Hz/1kHz/5kHz/6.25kHz/8.3kHz/9kHz/10kHz/12.5kHz/
20kHz/25kHz/30kHz/50kHz/100kHz/500kHz

操作

①［ダイヤル］を時計方向に回すとプリセット値を昇順に選択します。
②［ダイヤル］を反時計方向に回すとプリセット値を降順に選択します。
③ 選択したステップ周波数は、［ENT］で確定します。
④ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

9.3 ステップアジャスト

［UP］、［DOWN］、［ダイヤル］で受信周波数を変更した場合、変更後の受信周波数をステップ周波数の整数倍に調整する、しないの機能です。

9.3.1 ステップアジャスト OFF

変更後、受信周波数はステップ周波数の整数倍に調整されます。

9.3.2 ステップアジャスト ON

変更後、受信周波数はステップ周波数の整数倍に調整されないで、表示している受信周波数を基準にステップ周波数で増減します。

例 1
ステップ周波数 20kHz

受信周波数	ステップアジャスト		操作キー
	OFF	ON	
140.005MHz	140.020MHz	140.025MHz	［UP］
	140.000MHz	139.985MHz	［DOWN］

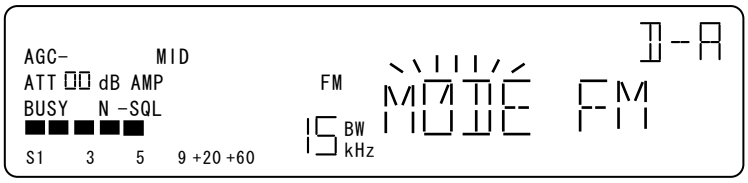
9.4 復調モードの設定

①復調モードは、FM/AM/USB/LSB/CW/AUTO があります。
②FM/AM/USB/LSB/CW は、メニューへ移行して設定します。
③AUTO は、［FUNC+L］+［MODE］で ON/OFF を交互に切り替えます。
④メニューへ移行して設定します。

メニューへ移行

［MODE］で、移行します。

メニュー画面 MODE



復調モード選択メニュー
復調モードを選択。
ENT 確定してメニュー終了。

基本事項

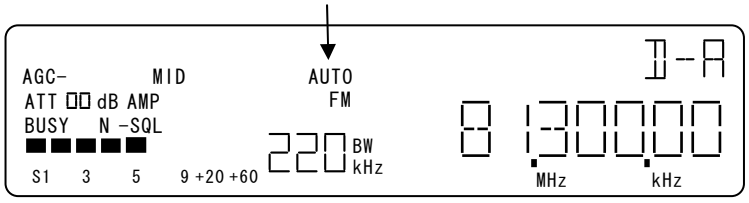
①復調モード選択：［ダイヤル］
②確定　　：［ENT］
③操作取り消し　：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［MODE］で、復調モード設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、復調モードを選択します。
③ 選択した復調モードは、［ENT］で確定してメニューを終了します。
④ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

復調モード AUTO

①［FUNCL］+［MODE］で ON/OFF を切り替えます。
② ON に設定すると、設定した受信周波数によってあらかじめ記憶しているデータテーブルから復調モード、IFBW、ステップ周数その他を自動設定します。



FUNC+L + MODE で ON/OFF を切り替えます。
復調モード AUOT の画面
“AUTO” が点灯します。

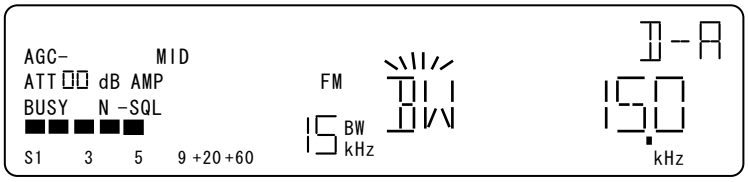
9.5 IFBW（IF 帯域幅）の設定

①IF フィルタの帯域幅を設定します。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

［FUNC］+［MODE］で移行します。

メニュー画面 FUNC + MODE



IFBW 選択メニュー
IFBW を選択。
ENT 確定してメニュー終了。

基本事項

①IFBW 選択　　:［ダイヤル］
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し　:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［MODE］で、IFBW 設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、IFBW を選択します。
③ 選択した IFBW は、［ENT］で確定してメニューを終了します。
④ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

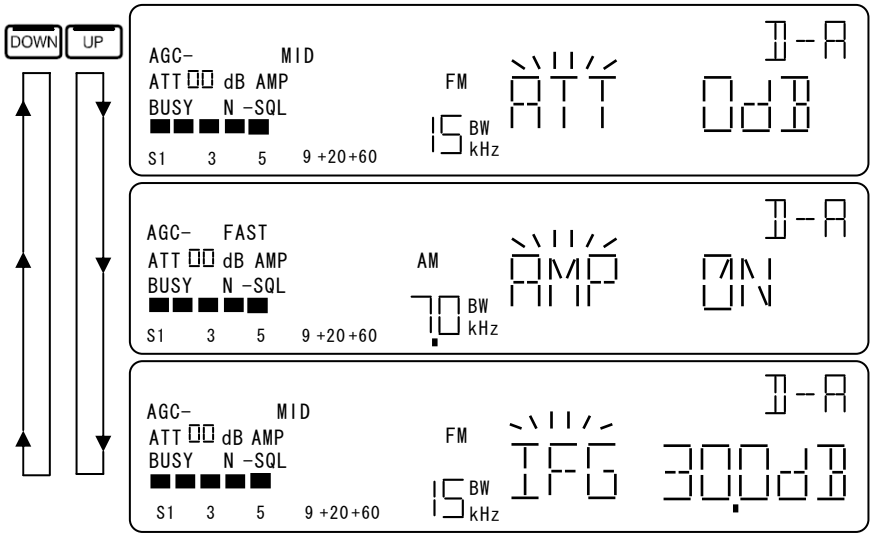
9.6 ATT（アッテネータ）の設定

①RF-ATT、RF-AMP、IF-GAIN があります。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC］+［1］で、トップメニューへ移行します。
② トップメニューは、RF-ATT です。
③［UP]、[DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC + 1



RF-ATT 設定メニュー
ATT 値を選択します。
ENT 確定してメニュー終了。

RF-AMP 設定メニュー
PASS ON/OFF を交互に切り替えます。
ENT 確定してメニュー終了。

IF-GAIN 設定メニュー
オプションです、搭載していないと設定できません。
GAIN 値を選択します。
ENT 確定してメニュー終了。

9.6.1 RF-ATT の設定

①強力な電波を受信して、受信音が歪んで聞こえるような時に使用します。
②アンテナ入力回路に挿入されています。

基本

①ATT 値　　：0dB/10dB/20dB/30dB/AUTO
②設定可能周波数範囲：5kHz～1099.999999MHz
③ATT 値の選択　　：[ダイヤル]
④確定　　：[ENT]
⑤操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［1］で、RF-ATT 設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、ATT 値を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

9.6.2 RF-AMP の設定

RF-AMP の ON/OFF を設定します。

基本事項

①設定周波数範囲：5kHz～29.999999MHz
②ON/OFF の選択：[PASS]
③確定　　：[ENT]
④操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① [FUNC] + [1] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で RF-AMP 設定メニューへ移動します。
② [PASS] で、ON/OFF 選択します。
③ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

9.6.3 IF-GAINN の設定

①複数のセットでシステムを構築する場合、各セットの IF 出力レベルを揃えるのに使用します。
②オプションです、搭載していないと設定できません。

基本事項

①GAIN 値　　：0dB～30dB
②ステップ　　：0.5dB
③GAIN 値の選択：[ダイヤル]
④確定　　：[ENT]
⑤操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① [FUNC] + [1] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で IF-GAIN 設定メニューへ移動します。
② [ダイヤル] で、GAIN 値を選択します。
③ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

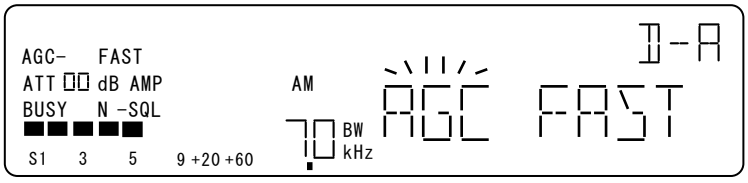
9.7 AGC（自動利得制御）の設定

①受信電波の信号強度がフェージングなどで変化しても、受信音を一定レベルに保つように動作します。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

［FUNC］+［2］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 FUNC + 2



AGC 設定メニュー画面

AGC を選択します。

ENT 確定してメニュー終了。

基本事項

①AGC の種類　：OFF/FAST/MID/SLOW
②選択　　：［ダイヤル］
③確定　　：［ENT］
④操作取り消し：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［2］で、AGC 設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、AGC を選択します。
③ 選択した AGC は、［ENT］で確定してメニューを終了します。
④ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

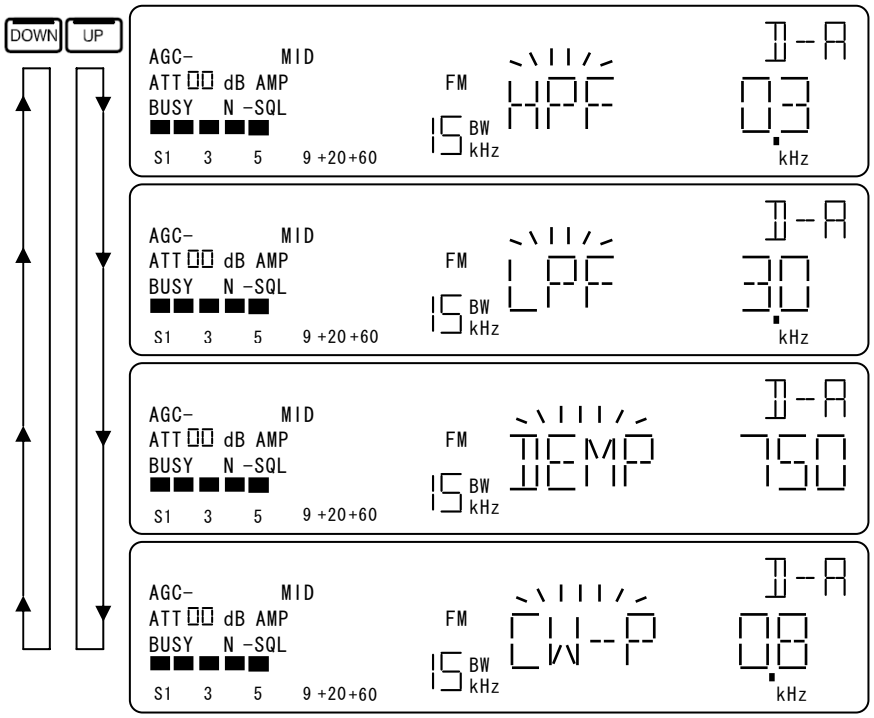
9.8 AF 環境設定

①音声出力に関する設定を行います。
②ハイパスフィルタ、ローパスフィルタ、ディエンファシス、CW ピッチがあります。
③メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC］+［3］で、トップメニューへ移行します。
② トップメニューは、HPF です。
③［UP］、［DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC + 3



HPF 設定メニュー
HPF を選択します。
ENT 確定してメニュー終了。

LPF 設定メニュー
LPF を選択します。
ENT 確定してメニュー終了。

ディエンファ設定メニュー
ディエンファシスを選択します。
ENT 確定してメニュー終了。

CW ピッチ設定メニュー
CW-P を選択します。
ENT 確定してメニュー終了。

9.8.1 HPF（ハイパスフィルタ）の設定

基本事項

①設定値　　：0.05kHz/0.2kHz/0.3kHz/0.4kHz
②HPF 選択　　：[ダイヤル]
③確定　　：[ENT]
④操作り取消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［3］で、HPF 設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、HPF を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

9.8.2 LPF（ローパスフィルタ）の設定

基本事項

①設定値　　：3.0kHz/4.0kHz/6.0kHz/20.0kHz
②LPF 選択　　：[ダイヤル]
③確定　　：[ENT]
④操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［3］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］で LPF 設定メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、LPF を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

9.8.3 DEMP（ディエンファシス）の設定

基本事項

①設定値　　：THRU/25uS/50uS/75uS/750uS
②DEMP 選択　：[ダイヤル]
③確定　　：[ENT]
④操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［3］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］で DEMP 設定メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、DEMP を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

9.8.4 CW-P（CW ビート周波数）の設定

基本事項

①設定値　　：0.4kHz/0.5kHz/0.6kHz/0.7kHz/0.8kHz/0.9kHz/1kHz/12kHz
②CW-P 選択　：[ダイヤル]
③確定　　：[ENT]
④操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する移行直前の画面に戻ります。

操作

① [FUNC] + [3] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で CW-P 設定メニューへ移動します。
② [ダイヤル] で、CW-P を選択します。
③ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

9.9 周波数 SHIFT

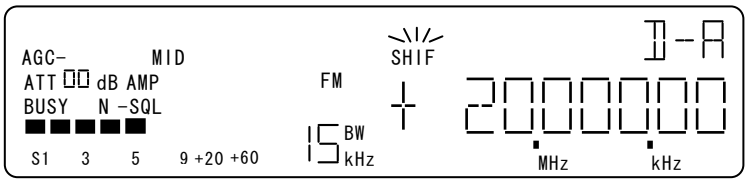
①表示している受信周波数に、設定されている SHIFT 周波数を加える機能です。
②SHIFT 周波数は、メニューへ移行して設定します。

9.9.1 SHIFT 周波数の設定

メニューへの移行

［FUNC+L］+［4］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 FUNC+L + 4



SHIFT 周波数設定メニュー

テンキー SHIFT 周波数の入力。
ENT 仮確定。
ENT 確定してメニュー終了。
±の符号を選択します。
ENT 確定してメニュー終了。

基本事項

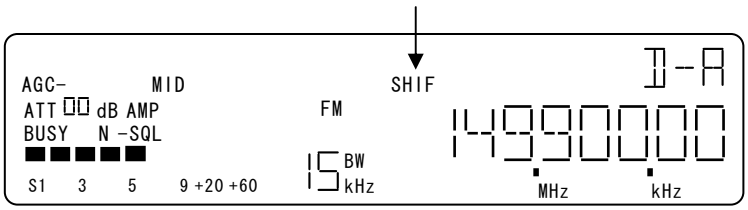
①周波数範囲　　：0～999.999999MHz
②周波数の設定　　：テンキー、ダイヤルモードの受信周波数設定と同じ方法です。
③仮確定　　：［ENT］
④確定　　：仮確定後の、［ENT］
⑤符号（±）の選択 ：［ダイヤル］
⑥符号選択後の確定：１回目の［ENT］
⑦操作取り消し　　：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［4］で、SHIFT 周波数設定メニューへ移行します。
②テンキーで、SHIFT 周波数を入力します。
③入力した SHIFT 周波数は、［ENT］操作で仮確定します、仮確定以後の［ENT］で確定してメニューを終了します。
④符号は、［ダイヤル］で選択します。
⑤選択した符号は、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

9.9.2 周波数 SHIFT の ON/OFF

［FUNC］+［4］で、ON/OFF を交互に切り替えます。



周波数 SHIFT ON の画面

“SHIFT” が点灯します。

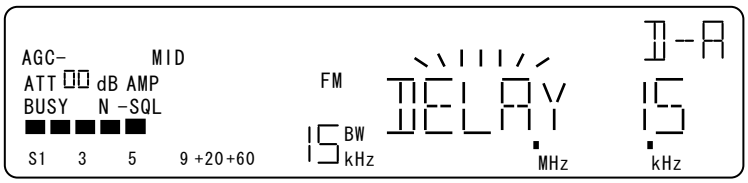
9.10 DELAY（ディレイ）時間の設定

①サーチ停止中、スキャン停止中、プライオリティ受信停止中に受信電波が途切れ、サーチ、スキャンを再開するまでの待ち時間です。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

［FUNC］+［5］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 FUNC + 5



ディレイ時間設定メニュー

DELAY 時間を選択。

PASS OFF と設定時間の切り替え。

ENT 確定してメニュー終了。

基本事項

①ディレイ時間　　：0.0～9.9 秒　0.0 の表示は OFF です。
②ステップ　　：0.1 秒
③OFF、設定時間の切り替え：［PASS］
④ディレイ時間選択　　：［ダイヤル］
⑤確定　　：［ENT］
⑥操作取り消し　　：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［5］で、ディレイ時間設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、ディレイ時間を選択します。
③［PASS］で OFF、設定時間が交互に切り替わります。
④ 選択したディレイ時間は、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

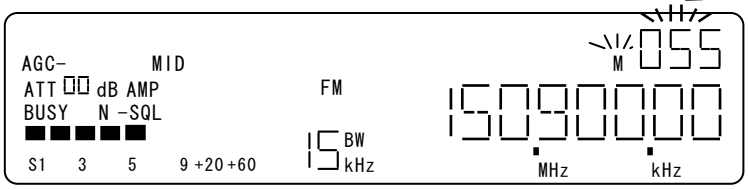
9.11 メモリの書き込み

①設定している内容を書き込みます。
②周波数、復調モード、ステップ周波数、IF 帯域幅、アッテネータ、タグ（名前）などを記憶させることができます。
③メニューへ移行して書き込みます。

メニューへの移行

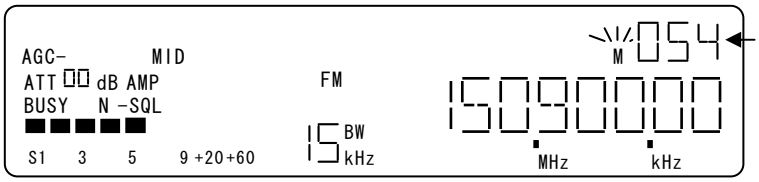
［FUNC］＋［ENT］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 FUNC ＋ ENT



メモリー書き込みメニュー
未書き込みチャンネルを選択した場合
“点滅”表示です。

テンキー　バンクを設定します。
UP　チャンネルを 10 増やします。
DOWN　チャンネルを 10 減らします。
チャンネルを 1 増減します。
ENT　書き込んで、メニューを終了。



書き込みされているチャンネルを選択した場合
“点灯”表示です。

基本事項

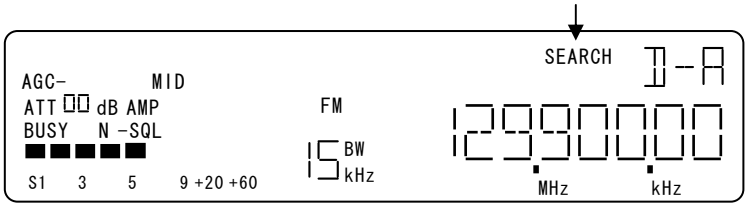
①移行先チャンネル　：最小未書き込みチャンネル
②バンクの選択　　：テンキー
③チャンネルを 10 増　：[UP]
④チャンネルを 10 減　：[DOWN]
⑤チャンネルを 1 増減：[ダイヤル]

操作

①［FUNC］+［ENT］で、メモリ書き込みメニューへ移行します。
② テンキーでバンクを選択します。
③［UP]、[DOWN]、[ダイヤル］でチャンネルを選択します。
④［ENT］で書き込んでメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

10 ダイヤルサーチ（VFO サーチ）

①読み出しているダイヤル（VFO）で、ステップ周波数間隔で電波を探す機能です。
②ディスプレイの “SEARCH” が点灯します。
③ダイヤル（VFO）の場合、[UP+L]、[DOWN+L] で移行し開始します。



ダイヤルサーチ(VFO サーチ)画面
“SEARCH” が点灯します。

UP+L　アップ方向へ開始します。

DOWN+L　ダウン方向へ開始します。

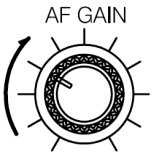
基本事項

①範囲
5kHz～3650MHz の全周波数範囲。
②停止、再開
電波を受信してスケルチが開いたら停止します。
電波が受信できなくなりスケルチが閉じ、ディレイ時間が経過したら再開します。
③上限周波数、下限周波数に達した場合
上限周波数に達した場合は、ダウン方向に折り返してサーチを継続します。
下限周波数に達した場合は、アップ方向に折り返してサーチを継続します。
④テンキーで直接周波数を変更するとダイヤルサーチは解除され、ダイヤル（VFO）に移行します。

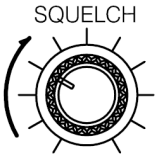
準備（音量、スケルチ）

①AF GAIN（音量）の調整
AF GAIN ツマミは、時計方向に回すと音量が大きくなります。
AF GAIN ツマミで、音量を聞きやすい大きさに調整します。
②SQUELCH（スケルチ）の調整
SQUELCH ツマミは、時計方向に回すとスケルチが深くなります。
SQUELCH ツマミで、ノイズが消えたり出たりする不安定な位置から目盛り線幅 3～5 個分時計方向に回します。

時計方向に回すと
受信音が大きくなります



時計方向に回すと
スケルチが深くなります



操作

①ダイヤルサーチへの移行
ダイヤル（VFO）の場合［UP+L］で移行し、表示している周波数からアップ方向へ開始します。
ダイヤル（VFO）の場合［DOWN+L］で移行し、表示している周波数からダウン方向へ開始します。
②サーチの方向変更
［UP］で、アップ方向になります。
［DOWN］で、ダウン方向になります。
［ダイヤル］を時計方向に回すと、アップ方向になります。
［ダイヤル］を反時計方向に回すと、ダウン方向になります。

10.1 環境データ設定

①PAUSE 時間を設定します、PASUE はサーチの方法をコントロールする機能です。
②PASUE が OFF の場合は、通常のサーチでスケルチが開いている間停止し受信を続けます。
③PAUSE が ON の場合は、スケルチが開いていても PAUSE 時間が経過すると次の周波数へ進み
　サーチを再開します。
④OFF/ON の違いは「表 1」を参照してください。
⑤メニューへ移行して設定します。

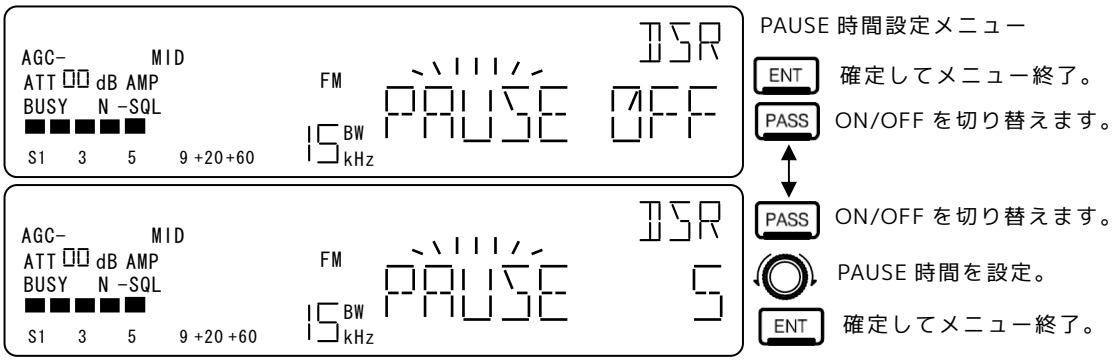
表 1

	PAUSE	
	OFF	ON（設定時間）
スケルチ開	停止	PAUSE 時間の間　：停止 PAUSU 時間経過後：次の周波数へ進みます
スケルチ閉	継続	継続

メニューへの移行

［FUNC+L］＋［DIAL］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 FUNC+L ＋ DIAL



基本事項

①PAUSE 時間　　：1～60 秒
②ステップ　　：1 秒
③ON/OFF の切り替え：［PASS］
④PAUSE 時間の選択　：［ダイヤル］
⑤確定　　：［ENT］
⑥操作取り消し　　：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］＋［DIAL］で、環境設定メニューへ移行します。
②［PASS］で、ON/OFF を交互に切り替えます。
③［ダイヤル］で、PAUSE 時間を選択します。
④［ENT］で、確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、EXIT］です。

10.2 パス周波数設定

希望しない特定周波数の電波が頻繁に送信され、ダイヤルサーチ最中にこの電波を受信しそのつど停止してしまう場合などに、パス設定することでサーチから除外する機能です。

基本事項

①設定できるのは、ダイヤルサーチ停止中の周波数です。
②継続中は設定できません。
③パス設定した周波数は、ダイヤルサーチから除外されます。
④設定チャンネル数は、VFO-A/B/C/D/E/F 共通で 100 チャンネルです。
※停止中は、電波を受信しスケルチが開いて、受信音が聞こえている状態です。
　継続中は、受信電波がなくスケルチが閉じて、順次電波を探している状態です。

操作

①［PASS］で、設定します。
②パス設定すると、次周波数へ進みサーチを再開します。

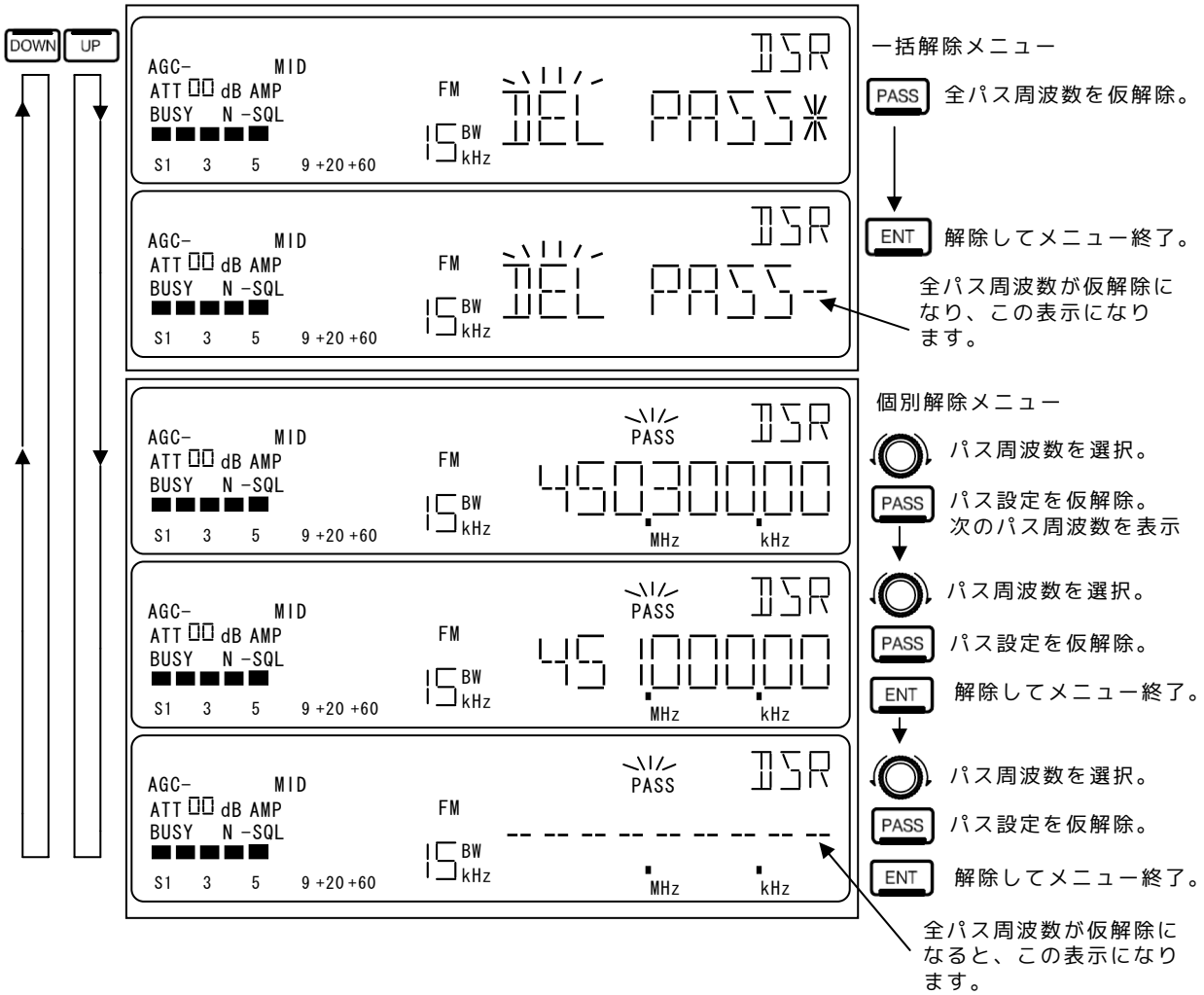
10.3 パス周波数設定の解除

①一括解除と個別解除があります。
②メニューへ移行して解除します。

メニューへの移行

①［FUNC+L］＋［0］で、トップメニューへ移行します。
② トップメニューは、一括解除です。
③［UP]、[DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC+L ＋ 0



10.3.1 一括解除

パス設定された周波数を一括で解除します。

基本事項

①仮解除　　：[PASS]
②確定　　：仮解除後の［ENT］
③操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作すると、パス設定は解除できません。

操作

①［FUNC+L］＋［0］で、一括解除メニューへ移行します。
②［PASS］で、全パス設定の解除を仮確定します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

10.3.2 個別解除

パス設定された周波数を選択して個別に消去します。

基本事項

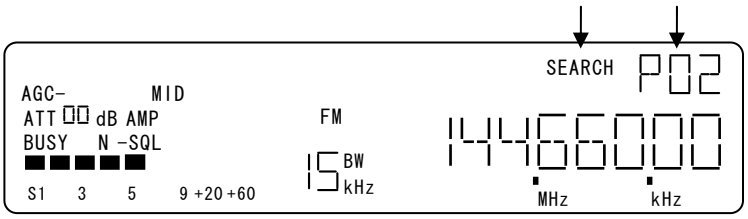
①パス設定の選択：[ダイヤル］
②仮解除　　：[PASS］
③確定　　：仮解除後の［ENT］
④操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作すると、パス設定は解除できません。

操作

①［FUNC+L］+［0］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］で個別解除メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、パス周波数を選択します。
③［PASS］で、パス設定の解除を仮確定して次のパス周波数を表示します。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

11 プログラムサーチ

①設定した下限周波数、上限周波数、ステップ周波数、復調モード、IFBW、AGC の内容で電波を探す機能です。
②ディスプレイの “SEARCH” が点灯し、メモリチャンネル表示部はバンク番号を表示します。
③［SRCH］で、移行します。



プログラムサーチの画面
“SEARCH” が点灯します。
メモリチャンネル表示部は
バンク番号を表示します。

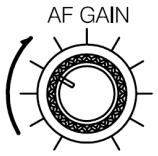
基本事項

①バンク
バンク数は、20 バンクです（P00～P19)。
バンクごとに違うサーチデータを設定できます
8 文字以内でタグ（名前）を付けることができます。
②停止、再開
電波を受信してスケルチが開いたら停止します。
電波が受信できなくなりスケルチが閉じ、ディレイ時間が経過したら再開します。
③上限周波数、下限周波数に達した場合
上限周波数に達したら、下限周波数からアップ方向へリング状にサーチを継続します。
下限周波数に達したら、上限周波数からダウン方向へリング状にサーチを継続します。

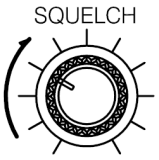
準備（音量　スケルチ）

①AF GAIN（音量）の調整
AF GAIN ツマミは、時計方向に回すと音量が大きくなります
AF GAIN ツマミで、音量を聞きやすい大きさに調整します。
②SQUELCH（スケルチ）の調整
SQUELCH ツマミは、時計方向に回すとスケルチが深くなります。
SQUELCH ツマミで、ノイズが消えたり出たりする不安定な位置から目盛り線幅 3～5 個分時計方向に回します。

時計方向に回すと
受信音が大きくなります



時計方向に回すと
スケルチが深くなります



操作

①プログラムサーチへ移行
［SARC］で、移行します。
②バンクの変更
テンキーで変更します。2 桁入力した時点で変更します。
③サーチの方向変更
［UP］で、アップ方向になります。
［DOWN］で、ダウン方向になります。
［ダイヤル］を時計方向に回すと、アップ方向になります。
［ダイヤル］を反時計方向に回すと、ダウン方向になります。

11.1 サーチデータ設定

①設定内容

下限周波数、上限周波数、ステップ周波数、復調モード、IFBW、AGC。

②メニューへ移行して設定します。

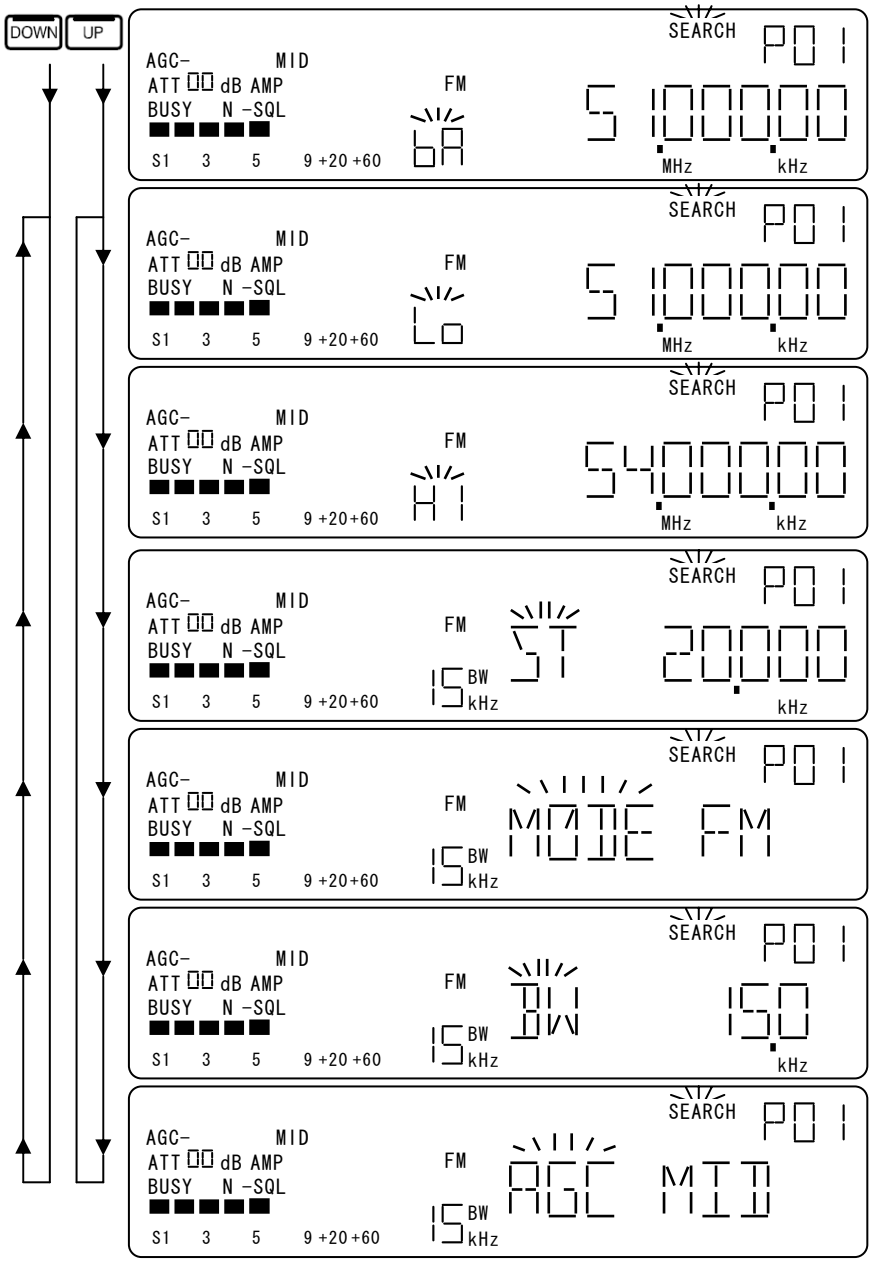
メニューへの移行

①［FUNC］＋［SRCH］で、トップメニューへ移行します。

② トップメニューは、バンク選択です。

③［UP]、［DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC ＋ SRCH



バンク設定メニュー
- バンクを選択。
- ENT 確定してメニュー終了。

下限周波数設定メニュー
- テンキー 下限周波数の入力。
- ENT 仮確定。
- ENT 確定してメニュー終了。

上限周波数設定メニュー
- テンキー 上限周波数の入力。
- ENT 仮確定。
- ENT 確定してメニュー終了。

ステップ周波数設定メニュー
- テンキー ステップ周波数の入力。
- ステップ周波数を選択。
- ENT 確定してメニュー終了。

復調モード設定メニュー
- 復調モードを選択。
- ENT 確定してメニュー終了。

IFBW 設定メニュー
- IFBW を選択。
- ENT 確定してメニュー終了。

AGC 設定メニュー
- AGC を選択。
- ENT 確定してメニュー終了。

11.1.1 バンク設定

基本事項

①バンク　　：P00～P19
②バンク選択　：[ダイヤル]
③確定　　：[ENT]
④操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［SRCH］で、バンク設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、バンクを選択します。
③［UP]、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

11.1.2 下限周波数設定

基本事項

①設定　　：テンキーで入力します。
　　ダイヤル（VFO）の受信周波数設定と同じ方法です。
②仮確定　　：[ENT]
③確定　　：仮確定後の［ENT］
④操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、［DOWN］で下限周波数設
　メニューへ移動します。
② テンキーで下限周波数を入力して、[ENT］で仮確定します。
③ ダイヤル（VFO）の受信周波数設定と同じ方法です。
④［UP]、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、EXIT］です。

11.1.3 上限周波数設定

基本事項

①入力　　：テンキー
　　ダイヤル（VFO）の受信周波数設定と同じ方法です。
②仮確定　　：[ENT]
③確定　　：仮確定後の［ENT］
④操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］で上限周波数設定メニューへ移動します。
② テンキーで上限周波数を入力して、[ENT］で仮確定します。
③ ダイヤル（VFO）の受信周波数設定と同じ方法です。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

11.1.4 ステップ周波数設定

基本事項

①入力　　：テンキー
②選択　　：[ダイヤル]
　　ダイヤル（VFO）のステップ周波数設定と同じ方法です。
③仮確定　　：[ENT]
④確定　　：仮確定後の［ENT］
⑤操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
　※［ダイヤル］で選択した直後の、[ENT］は確定してメニューを終了します。

操作

①［FUNC］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］でステップ周波数設定メニューへ移動します。
② テンキーでステップ周波数を入力して、[ENT］で仮確定します。
③ ダイヤル（VFO）のステップ周波数設定と同じ方法です。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

11.1.5 復調モード設定

基本事項

①選択　　:［ダイヤル］
　　ダイヤル（VFO）の復調モード設定と同じ方法です。
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で復調モード設定メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、復調モードを選択します。
③ ダイヤル（VFO）の復調モード選択と同じ方法です。
④［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

11.1.6 IFBW（IF 帯域幅）設定

基本事項

①選択　　:［ダイヤル］
　　ダイヤル（VFO）の IFBW 設定と同じ方法です。
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で IFBW 設定メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、IFBW を選択します。
③ ダイヤル（VFO）の IFBW 選択と同じ方法です。
④［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

11.1.7 AGC 設定

基本事項

①選択　　:［ダイヤル］
　　ダイヤル（VFO）の AGC 設定と同じ方法です。
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で AGC 設定メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、AGC を選択します。
③ダイヤル（VFO）の AGC 選択と同じ方法です。
④［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

11.2 環境データ設定

①設定内容

PAUSE 時間、バンクのリンク対象・対象外、リンクの ON/OFF

②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC+L］＋［SRCH］で、メニューへ移行します。

② トップメニューは、PAUSE 時間設定です。

③［UP]、［DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC+L ＋ SRCH

11.2.1 PAUSE 時間設定

①PAUSE 時間を設定します、PASUE はサーチの方法をコントロールする機能です。
②PASUE が OFF の場合は、通常のサーチでスケルチが開いている間停止し受信を続けます。
③PAUSE が ON の場合は、スケルチが開いていても PAUSE 時間が経過すると次の周波数へ進みサーチを再開します。
④OFF と ON の違いは「表 2」を参照してください。

表 2

	PAUSE	
	OFF	ON（設定時間）
スケルチ開	停止	PAUSE 時間の間　：停止 PAUSU 時間経過後：次の周波数へ進みます
スケルチ閉	継続	継続

基本事項

①PAUSE 時間　　：1～60 秒
②ステップ　　：1 秒
③選択　　：[ダイヤル]
④ON/OFF の切り替え：[PASS]
⑤確定　　：[ENT]
⑥操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］＋［SRCH］で、PAUSE 時間設定メニューへ移行します。
②［PASS］で、ON/OFF を交互に切り替えます。
③［ダイヤル］で、PAUSE 時間を選択します。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

11.2.2 バンクのリンク対象、対象外設定

基本事項

①選択　　：[PASS]
②確定　　：[ENT]
③操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］でバンクのリンク対象対、象外設定メニューへ移動します。
②［PASS］で対象、対象外を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

11.2.3 リンク ON/OFF 設定

基本事項

①選択　　：[PASS]
②確定　　：[ENT]
③操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］でリンク ON/OFF 設定メニューへ移動します。
②［PASS］で、ON/OFF を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

11.3 パス周波数設定

希望しない特定周波数の電波が頻繁に送信され、サーチ最中にこの電波を受信しそのつど停止してしまう場合に、パス設定することでサーチから除外する機能です。

基本事項

①設定できるのは、プログラムサーチ停止中の周波数です。
②継続中は、設定できません。
③パス設定した周波数は、プログラムサーチから除外されます。
④パス設定チャンネル数
　全バンク合計設定チャンネル：500 チャンネル
　1 バンク最大設定チャンネル：100 チャンネル

操作

①［PASS］で、設定します。

11.4 サーチ設定内容の消去

①設定内容を消去します。

②メニューへ移行して消去します、プログラムサーチモードの場合に移行できます。

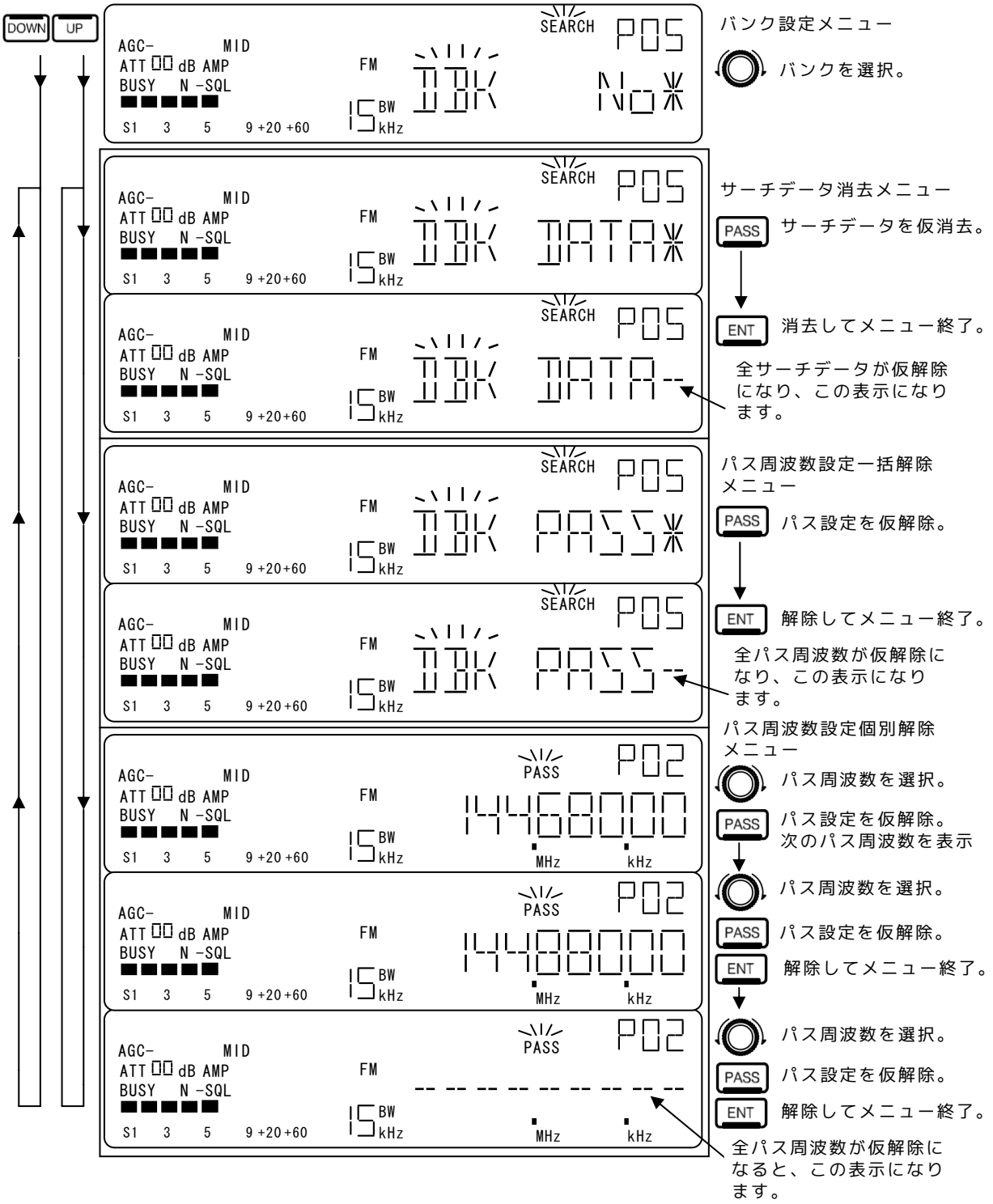
メニューへの移行

①［FUNC+L］＋［0］で、トップメニューへ移行します。

② トップメニューは、バンク選択です。

③［UP]、[DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC+L ＋ 0



11.4.1 サーチデータ消去

基本事項

①仮消去　　:［PASS］
②確定　　：仮消去後の［ENT］
③操作取り消し :［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
　※［PASS］より先に［ENT］を操作するとサーチデータは消去できません。

操作

①［FUNC+L］+［0］で、バンク選択メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、バンクを選択します。
③［UP］、［DOWN］でサーチデータ消去メニューへ移動します。
④［PASS］で、サーチデータの消去が仮確定します。
⑤［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑥ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑦ 操作を取り消す場合は、EXIT］です。

11.4.2 パス周波数設定の一括解除

パス設定された周波数を、バンクごとに一括で解除します。

基本事項

①仮解除　　：[PASS]
②確定　　：仮解除後の［ENT］
③操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作すると、パス設定は解除できません。

操作

①［FUNC+L］＋［0］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOUW］で、一括解除メニューへ移動します。
②［PASS］で、全パス設定の解除を仮確定します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

11.4.3 パス周波数設定の個別解除

パス設定された周波数を個別に選択し解除します。

基本事項

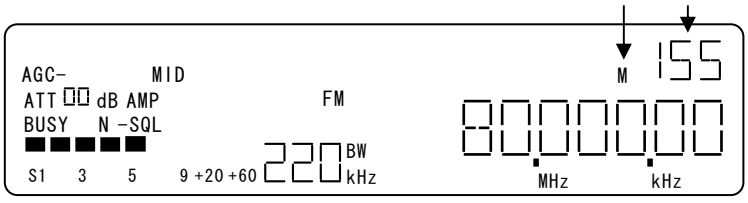
①パス設定の選択：[ダイヤル]
②仮解除　　：[PASS]
③確定　　：仮解除後の［ENT］
④操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作すると、パス設定は解除できません。

操作

①［FUNC+L］+［0］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］で個別解除メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、パス周波数を選択します。
③［PASS］で、パス設定の解除を仮確定して次のパス周波数を表示します。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

12 メモリリード

メモリチャンネルを手動で呼び出して受信する機能です。



メモリリードの画面
“M ”が点灯します。
メモリチャンネル表示部は
メモリチャンネル番号を表示
します。

基本事項

①メモリチャンネル

バンク　　：10（0～9）
チャンネル　：100（00～99）
合計チャンネル：1000（000～999）

操作

①メモリリードへの移行

- ［MEM］で、メモリリードへ移行します。

②メモリチャンネルの変更

- テンキーでバンクを変更します。
- 1 桁入力した時点で変更し、そのバンクの最小書き込みチャンネルを呼び出します。
- バンク変更後［UP］、［DOWN］、［ダイヤル］で、目的のチャンネルを呼び出します。

※3 桁の番号で、直接メモリチャンネルを呼び出すことはできません。

12.1 パスの設定

①［PASS］で、交互にパスの設定、解除を繰り返します。
②パス設定されたチャンネルは、メモリスキャンから除外されます。

12.2 セレクトの設定

①［FUNC］＋［PASS］で、交互にセレクトの設定、解除を繰り返します。
②セレクト設定されてチャンネルは、セレクトスキャンの対象になります。

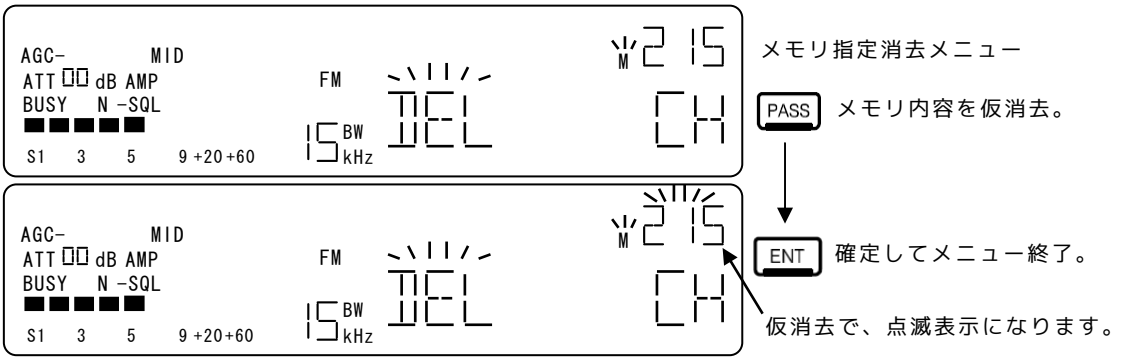
12.3 メモリ指定消去

①呼び出しているメモリチャンネルの内容を消去します。
②メニューへ移行して消去します。

メニューへの移行

［FUNC］＋［0］で、メニューへ移行します。

メニュー画面 FUNC + 0



基本事項

①仮消去　　：［PASS］
②確定　　：［PASS］に続けて［ENT］
③操作取り消し：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作するとメモリ内容は消去できません。

操作

①［FUNC］＋［0］で、メモリ指定消去メニューへ移行します。
②［PASS］で、メモリ内容の消去が仮確定します。メモリチャンネルが点滅表示になります。
③［PASS］に続けて［ENT］で、メモリ内容の消去を確定してメニューを終了します。
④ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

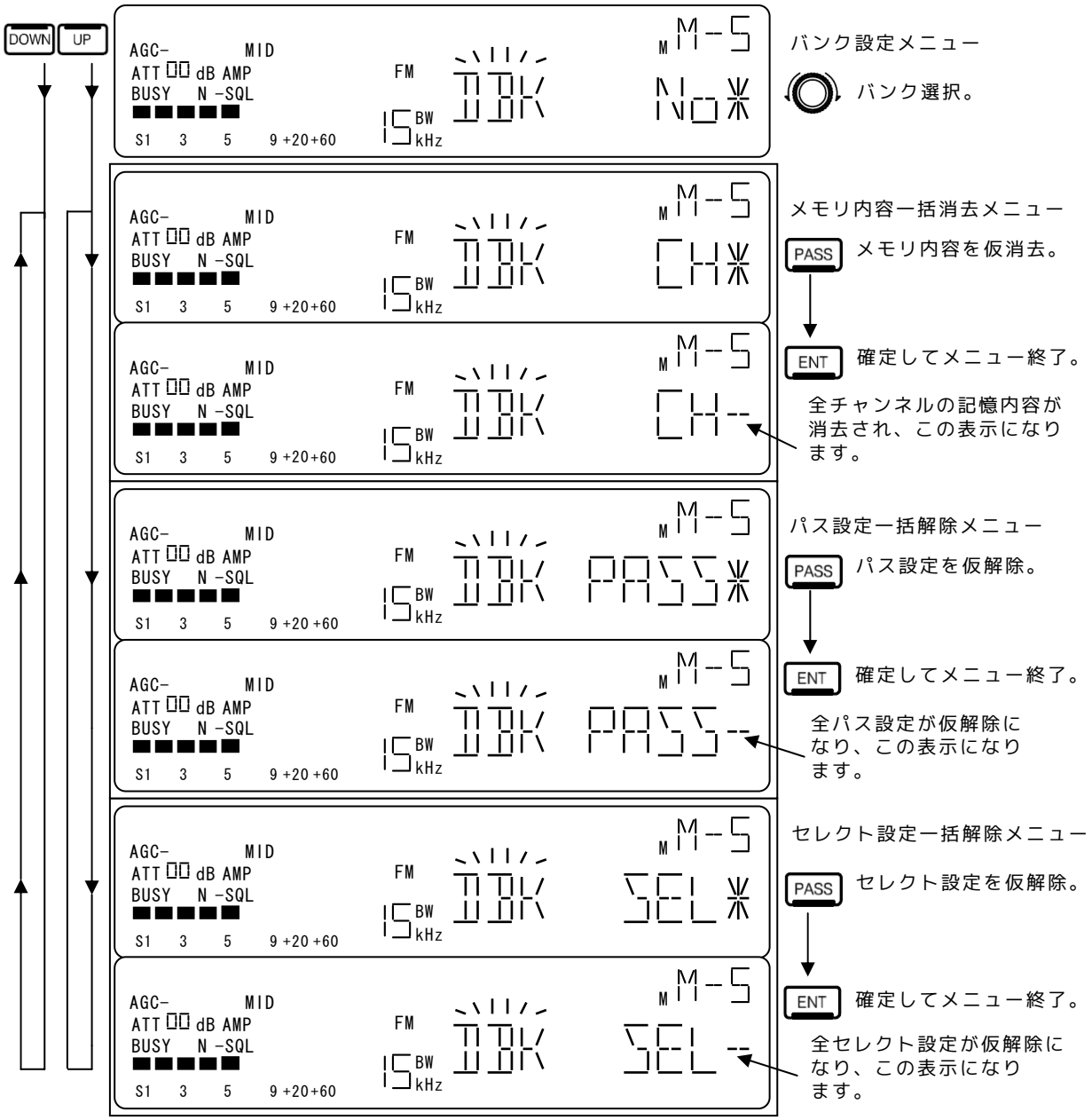
12.4 メモリー括消去、解除

①メモリ内容を一括消去します。
②パス設定、セレクト設定を一括で解除します。
③メニューへ移行して消去、解除します。

メニューへの移行

①［FUNC+L］＋［0］で、メニューへ移行します。

メニュー画面　FUNC+L ＋ 0



12.4.1 メモリ内容一括消去

基本事項

①仮消去　　:［PASS］
②確定　　:［PASS］に続けて［ENT］
③操作取り消し:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作すると、メモリ内容は消去できません。

操作

①［FUNC+L］+［0］で、バンク選択メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、バンクを選択します。
③［UP］、［DOWN］でメモリ内容一括解除メニューへ移動します。
④［PASS］で、指定バンクのメモリ内容の一括消去が仮確定します。
⑤［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑥ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑦ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

12.4.2 パス設定一括解除

基本事項

①仮解除　　:［PASS］
②解除　　:［PASS］に続けて［ENT］
③操作取り消し:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作すると、パス設定は解除できません。

操作

①［FUNC+L］+［0］で、バンク選択メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、バンクを選択します。
③［UP］、［DOWN］でパス設定一括解除メニューへ移動します。
④［PASS］で、指定バンクの全パス設定解除が仮確定します。
⑤［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑥ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑦ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

12.4.3 セレクト設定一括解除

基本事項

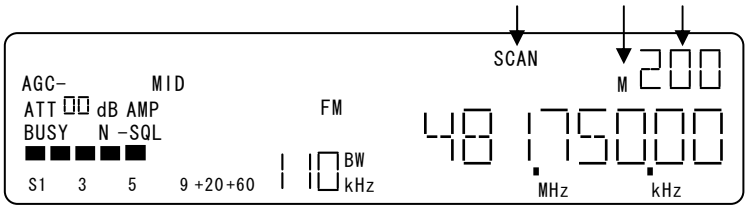
①仮解除　　:［PASS］
②確定　　:［PASS］に続けて［ENT］
③操作取り消し:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。
※［PASS］より先に［ENT］を操作すると、セレクト設定は解除できません。

操作

①［FUNC+L］+［0］で、バンク選択メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、バンクを選択します。
③［UP］、［DOWN］でセレクト設定一括解除メニューへ移動します。
④［PASS］で、指定バンクの全セレクト設定解除が仮確定します。
⑤［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑥ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑦ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

13 メモリスキャン

①メモリチャンネルを自動で順次呼び出して、電波を探す機能です。
②パス設定されているメモリチャンネルは、スキャンの対象から除外される。
③［FUNC］+［MEM］で移行します。
④メモリリードの場合は［MEM］、［UP+L］、［DOWN+L］で移行します。



FUNC + MEM

メモリスキャンの画面
“M” “SCAN”が点灯します。
メモリチャンネル表示部は
メモリチャンネル番号を表示
します。

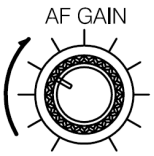
基本事項

①リンク ON/OFF
　OFF：選択しているバンクだけをスキャンします。
　ON ：リンク指定した複数のバンクを順次スキャンします。
②リング状にスキャンします。
③停止、再開
　電波を受信してスケルチが開いたら停止します。
　電波が受信できなくなりスケルチが閉じ、ディレイ時間が経過したら再開します。

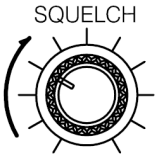
準備（音量　スケルチ）

①AF GAIN（音量）の調整
　AF GAIN ツマミは、時計方向に回すと音量が大きくなります。
　AF GAIN ツマミで、音量を適当な大きさに調整します。
②SQUELCH（スケルチ）の調整
　SQUELCH ツマミは、時計方向に回すとスケルチが深くなります。
　SQUELCH ツマミで、ノイズが消えたり出たりする不安定な位置から目盛り線幅 3～5 個分時計方向に回します。

時計方向に回すと
受信音が大きくなります



時計方向に回すと
スケルチが深くなります



操作

①メモリスキャンへの移行
　［FUNC］＋［MEM］で、メモリスキャンへ移行します。
　メモリリードの場合は、［MEM］、［UP+L］、［DOWN+L］でメモリスキャンへ移行します。
②スキャンの方向変更
　［UP］で、アップ方向になります。
　［DOWN］で、ダウン方向になります。
　［ダイヤル］を時計方向に回すとアップ方向になります。
　［ダイヤル］を反時計方向に回すとダウン方向になります。

13.1 環境データ設定

①設定内容

PAUSE 時間、バンクのリンク対象・対象外、リンクの ON/OFF

②メニューへ移行して設定します。

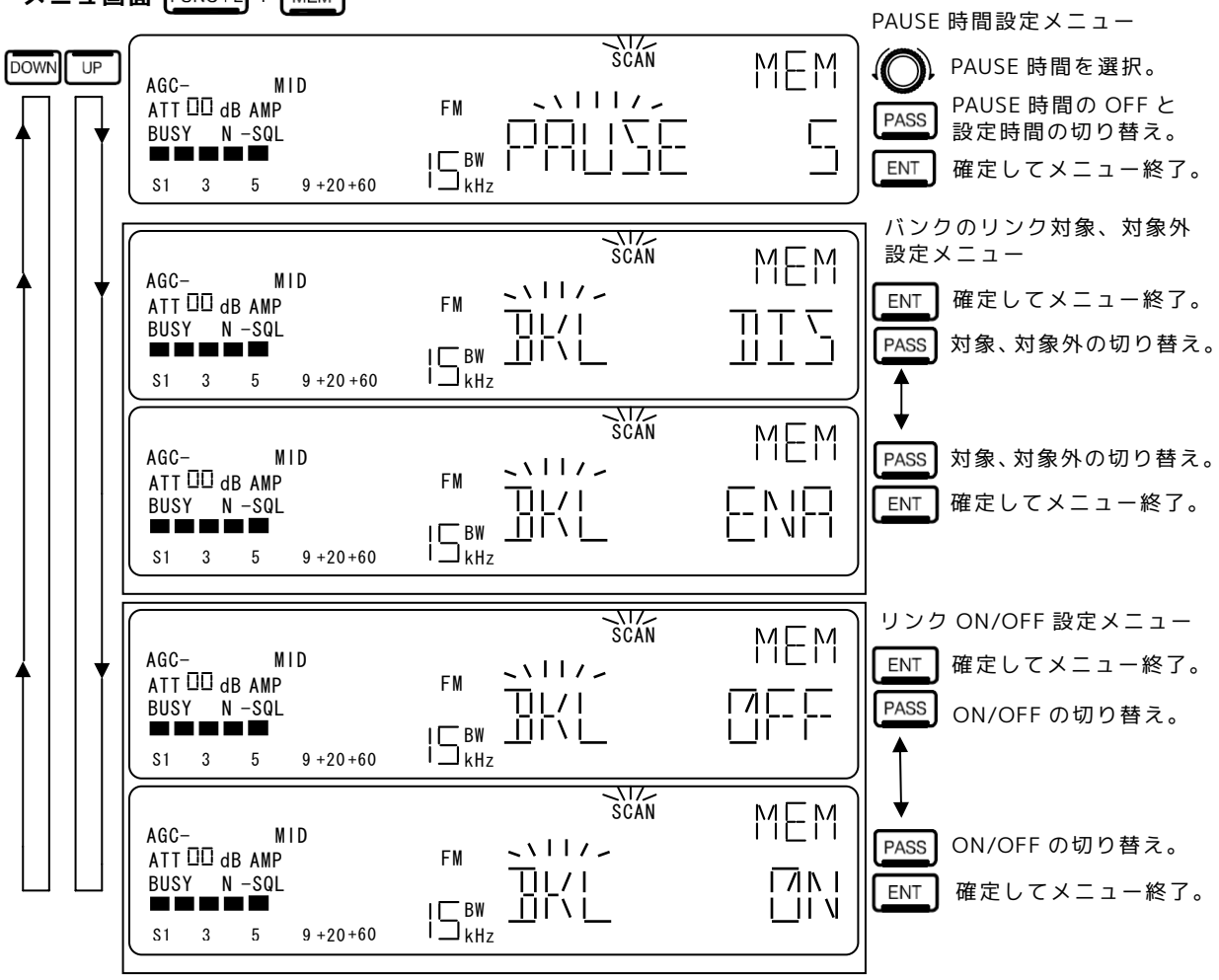
メニューへの移行

①［FUNC+L］＋［MEM］で、メニューへ移行します。

② トップメニューは、PAUSE 時間設定です。

③［UP]、［DOWN］でメニューを移動します。

メニュ画面 FUNC+L ＋ MEM



13.1.1 PAUSE 時間設定

①PAUSE 時間を設定します、PASUE はスキャン方法をコントロールする機能です。
②PASUE が OFF の場合は、通常のサーチでスケルチが開いている間停止し受信を続けます。
③PAUSE が ON の場合は、スケルチが開いていても PAUSE 時間が経過すると次の周波数へ進み
サーチを再開します。
④OFF と ON の違いは「表 3」を参照してください。

表 3

	PAUSE	
	OFF	ON（設定時間）
スケルチ開	停止	PAUSE 時間の間　：停止 PAUSU 時間経過後：次の周波数へ進みます
スケルチ閉	継続	継続

基本事項

①PAUSE 時間　　：1～60 秒
②ステップ　　：1 秒
③PAUSE 時間の選択　：[ダイヤル]
④ON/OFF の切り替え：[PASS]
⑤確定　　：[ENT]
⑤操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］＋［MEM］で、PAUSE 時間設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、PAUSE 時間を選択します。
③［PASS］で、ON/OFF を交互に切り替えます。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

13.1.2 バンクのリンク対象、対象外設定

基本事項

①選択　　：[PASS]
②確定　　：[ENT]
③操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［SRCH］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］でバンクの
リンク対象、対象外設定メニューへ移動します。
②［PASS］で対象、対象外を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

13.1.3 リンク ON/OFF 設定

基本事項

①選択　　:［PASS］
②確定　　:［ENT］
③操作取り消し:［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［MEM］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］でリンク ON/OFF 設定メニューへ移動します。
②［PASS］で、ON/OFF を選択します。
③［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

13.2 パスの設定

①［PASS］でパスの設定、解除を交互に繰り返します。
② パス設定されたチャンネルは、メモリスキャンから除外されます。

基本事項

①パス設定できるのは、スキャン停止中のチャンネルです。
②継続中は設定できません。
③パス設定したチャンネルは、メモリスキャンから除外されます。

13.3 セレクトの設定

①［FUNC］+［PASS］でセレクトの設定、解除を交互に繰り返します。
② セレクト設定されてチャンネルは、セレクトスキャンの対象になります。

基本事項

①セレクト設定できるのは、スキャン停止中のチャンネルです。
②継続中は設定できません。
③セレクト設定したチャンネルは、セレクトスキャンの対象になります。
④設定チャンネル数
　100 チャンネル

13.4 メモリ指定消去

メモリリードと同じです。61 ページを参照してください。

13.5 メモリー括消去、解除

メモリリードと同じです。62 ページを参照してください。

13.5.1 メモリ内容一括消去

メモリリードと同じです。63 ページを参照してください。

13.5.2 パス設定一括解除

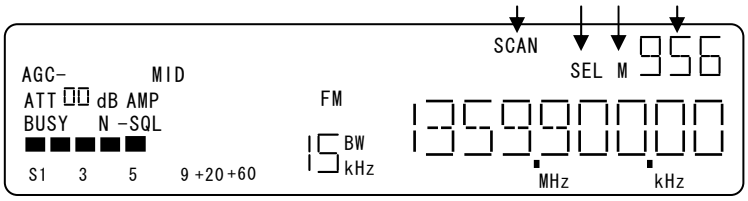
メモリリードと同じです。63 ページを参照してください。

13.5.3 セレクト設定一括解除

メモリリードと同じです。63 ページを参照してください。

14 セレクトスキャン

セレクト設定されているメモリチャンネルを自動で順次呼び出して、電波を探す機能です。



FUNC + 7

セレクトスキャン画面

“M”、“SEL”、“SCAN” が点灯します。
メモリチャンネル表示部は
メモリチャンネル番号を表示
します。

基本事項

最大セレクト設定数：100

操作

①セレクトスキャンへ移行

［FUNC+L］+［7］で、移行します。

15 プライオリティ受信

専用のチャンネルを一定間隔で呼び出し受信する機能です。

基本事項

①インターバル時間　　：1～60 秒
②ステップ　　：1 秒
③呼び出した時スケルチ閉じている場合：直前の画面へ戻ります。
④呼び出した時スケルチ開いている場合：停止して受信します。

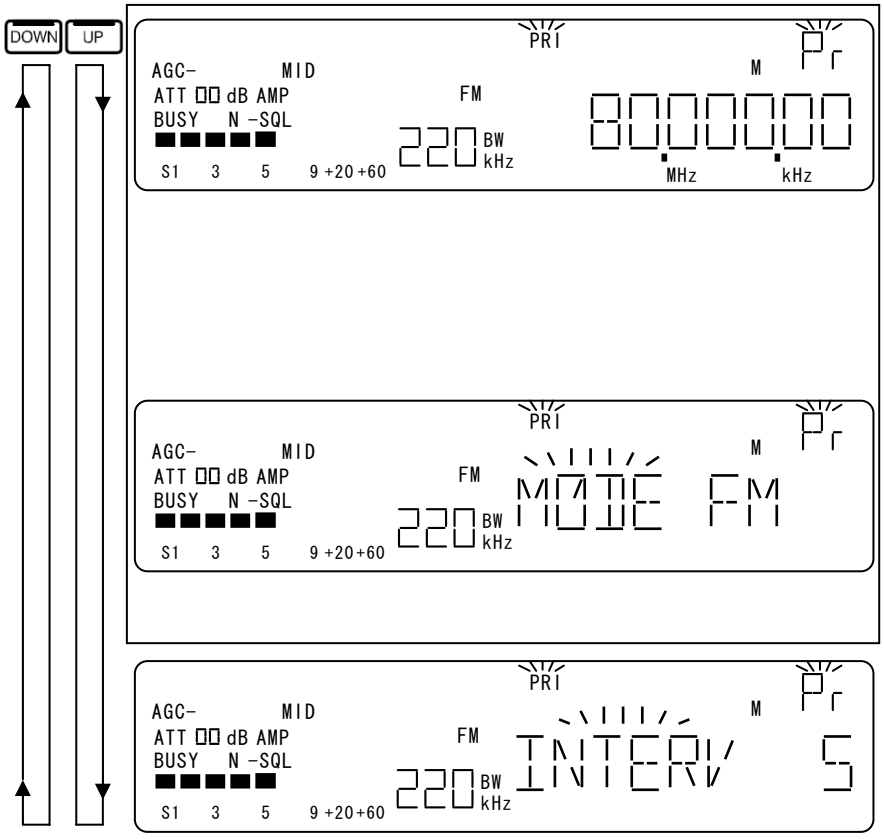
15.1 プライオリティチャンネル設定

メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC+L］＋［６］でメニューへ移行します。
② トップメニューは、チャンネル内容設定です。
③［UP]、[DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面　FUNC+L ＋ 6



チャンネル内容設定メニュー

ダイヤル(VFO)と同じ方法で
必要項目を設定します。

テンキー　受信周波数
ステップ周波数
の入力。

ENT　仮確定。

必要な項目を選択。

ENT　仮確定。

復調モードを設定
しています。

復調モードを選択。

ENT　仮確定。

ENT　仮確定に続いて
操作すると、
確定してメニュー終了。

インターバル設定メニュー

時間を設定。

ENT　確定してメニュー終了。

15.1.1 チャンネル内容の設定

基本事項

①周波数入力　：テンキー
②項目の選択　：[ダイヤル]
　　ダイヤル（VFO）と同じ方法です。
　　ダイヤル（VFO）とほぼ同じ項目が設定できます。
③仮確定　　：[ENT]
④確定　　：仮確定に続いて［ENT］
⑤操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［6］で、チャンネル内容設定メニューへ移行します。
② 必要な項目を設定します、方法はダイヤル（VFO）モードと同じです。
③ このメニュー内では 1 回目の［ENT］は仮確定です。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

15.1.2 インターバル設定

基本事項

①インターバル時間：1～60 秒
②ステップ　　：1 秒
③選択　　：[ダイヤル]
④確定　　：[ENT]
③操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［6］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］でインターバル設定メニューへ移動します。
②［ダイヤル］でインターバル時間を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

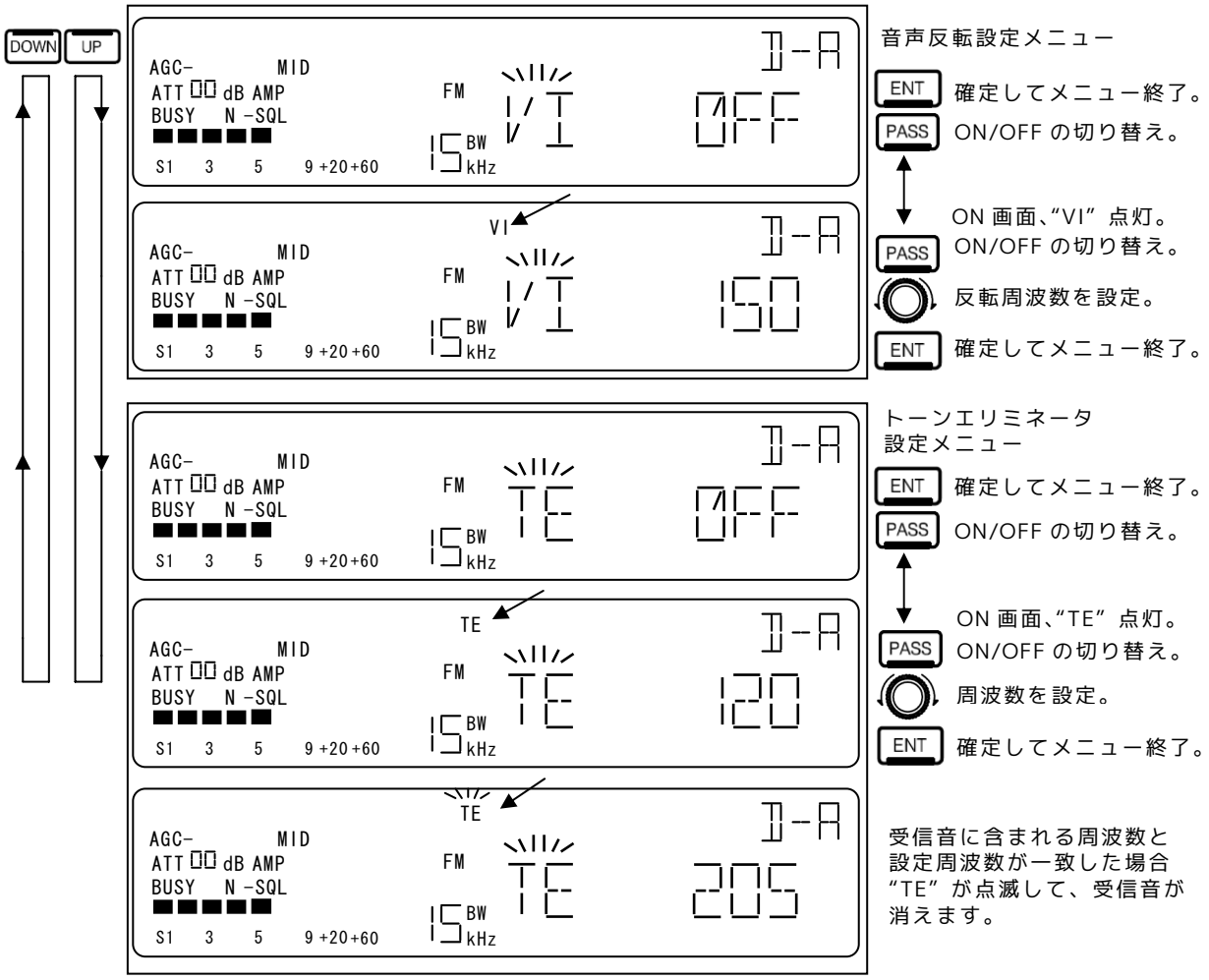
16 オプション設定

①VI（音声反転)、TE（トーンエリミネータ）の機能があります。
②メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC］＋［8］でメニューへ移行します。
② トップメニューは、VI 設定です。
③［UP]、[DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC + 8



16.1 VI（音声反転）の設定

受信音声を、設定した周波数で反転させる機能です。

基本事項

①反転周波数　　：3000Hz（0）～5550Hz（255）
②ステップ　　：10Hz
③ON/OFF の切り替え　　：[PASS]
④OFF を選択している場合：[ダイヤル] 操作は無効です。
⑤設定　　：[ダイヤル]
⑥確定　　：[ENT]
⑦操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［8］で、VI（音声反転）設定メニューへ移行します。
②［ダイヤル］で、反転周波数を選択します。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

16.2 TE（トーンエリミネータ）の設定

受信音声に、設定した周波数と同じ周波数を検出すると受信音声を消す機能です。

基本事項

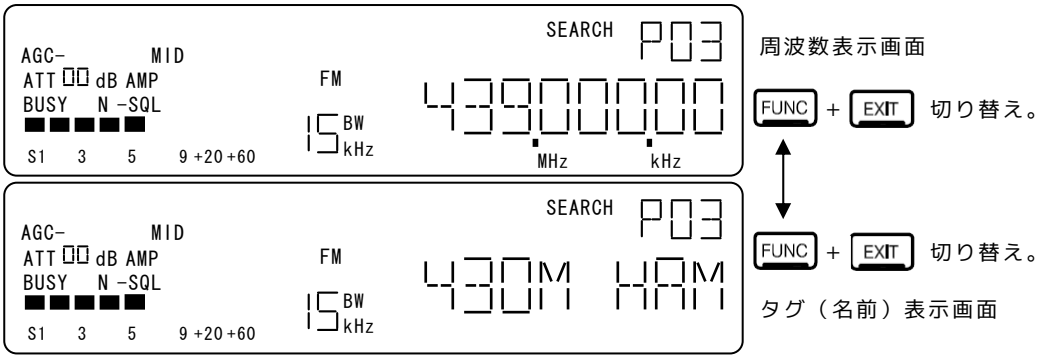
①検出周波数　　：
②ON/OFF の切り替え　　：[PASS]
③OFF を選択している場合：[ダイヤル] 操作は無効です。
④設定　　：[ダイヤル]
⑤確定　　：[ENT]
⑥操作取り消し　　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC］+［8］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］で TE（トーンエリミネータ）設定メニューへ移動します。
②［ダイヤル］で、周波数を設定します。
受信音に含まれる周波数と設定周波数が一致した場合、ディスプレイの“TE”が点滅し、受信音が消えます。
③［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

17 タグ（名前）

①プログラムサーチバンク、メモリチャンネルに最大 8 文字のタグ（名前）を付けることができます。
②受信周波数とタグ（名前）は交互に切り替えて表示することができます。



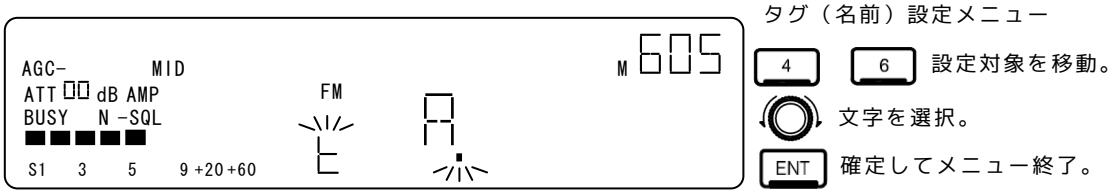
17.1 タグ（名前）設定

メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC+L］+［EXIT］で、移行します。

メニュー画面 FUNC+L + EXIT



基本事項

①タグ（名前）設定対象：呼び出しているプログラムサーチバンク、メモリチャンネル。
②文字数　：8 文字以内
③文字の選択　：［ダイヤル］
④設定対象の選択　：［4］、［6］
　［4］は、設定対象を左方向へ移動します。
　［6］は、設定対象を右方向へ移動します。
⑤確定　：［ENT］
⑥操作取り消し　：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［EXIT］で、タグ（名前）設定メニューへ移行します。
②［4］、［6］で設定対象を選択します。
③［ダイヤル］で、文字を選択します。
④［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

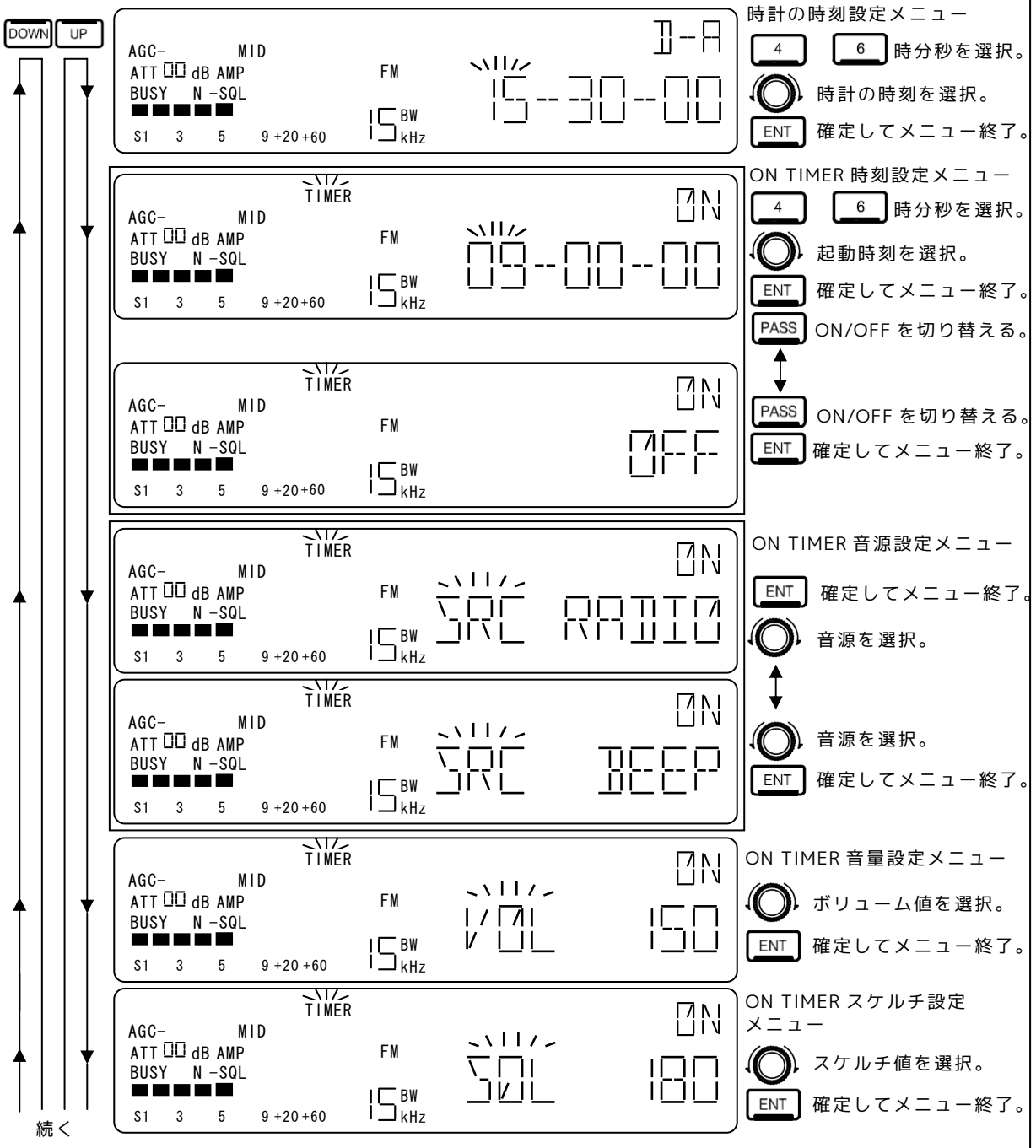
18 時計機能の設定

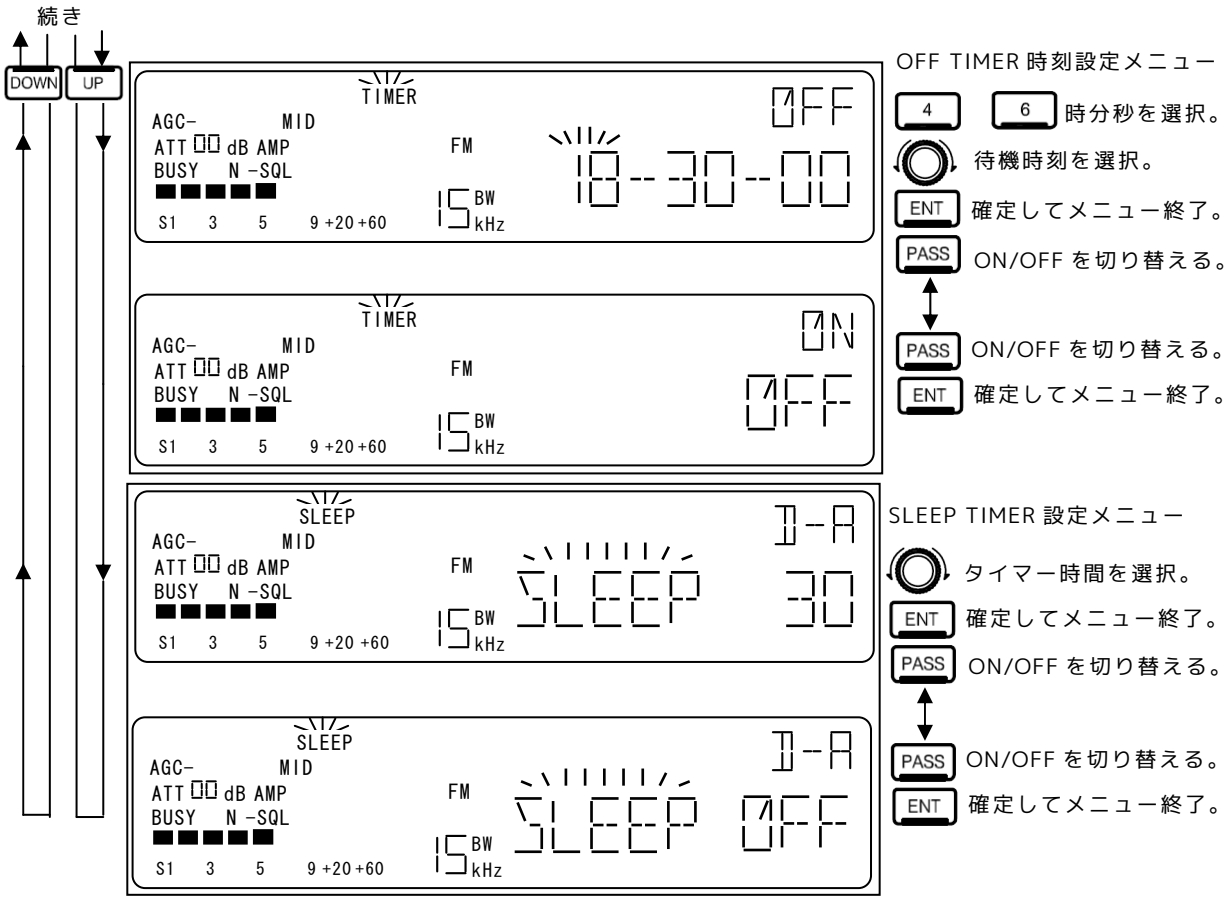
①各種時計機能に関する時刻と補助項目の設定を行います。
②時計、オンタイマ、オフタイマ、スリープタイマがあります。
③メニューへ移行して設定します。

メニューへの移行

①［FUNC+L］+［9］で、トップメニューへ移行します。
② トップメニューは、時計の時刻合せです。
③［UP]、[DOWN］でメニューを移動します。

メニュー画面 FUNC+L + 9




続き
DOWN
UP
TIMER
AGC- MID
ATT 00 dB AMP
BUSY N -SQL
S1 3 5 9 +20 +60
FM
BW
kHz
OFF
10--30--00
TIMER
ON
OFF
SLEEP
SLEEP
OFF TIMER 時刻設定メニュー
4
6
時分秒を選択。
待機時刻を選択。
ENT
確定してメニュー終了。
PASS
ON/OFF を切り替える。
PASS
ON/OFF を切り替える。
ENT
確定してメニュー終了。
SLEEP TIMER 設定メニュー
タイマー時間を選択。
ENT
確定してメニュー終了。
PASS
ON/OFF を切り替える。
PASS
ON/OFF を切り替える。
ENT
確定してメニュー終了。

18.1 時計の時刻設定

時計の時刻を設定します。

基本事項

①表示形式　　：24 時間
②時分秒の選択：[4][6]
　　[4] は、時分秒を左方向へ移動します。
　　[6] は、時分秒を右方向へ移動します。
③時刻の選択　：[ダイヤル]
④確定　　：[ENT]、メニューを移動した時点。
⑤操作取り消し：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［9］で、時計の時刻設定メニューへ移行します。
②［4]、[6］で設定対象へ移動します。
③［ダイヤル］で、時刻を選択します。
④［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

18.2 ON TIMER の設定

起動時刻、音源、音量、スケルチの設定があります。

18.2.1 ON TIMER 起動時刻設定

ON TIMER の起動時刻を設定します。

基本事項

①表示形式　　：24 時間
②ON/OFF 切り替え：[PASS]
③時分秒の選択　：[4][6]
　　[4] は、時分秒を左方向へ移動します。
　　[6] は、時分秒を右方向へ移動します。
④時刻の選択　　：[ダイヤル]
⑤確定　　：[ENT]
⑥操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

①［FUNC+L］+［9］でトップメニューへ移行して、続けて［UP]、[DOWN］で ON TIMER 起動時刻設定メニューへ移動します。
②［PASS］で、ON/OFF を切り替えます。
③［4]、[6］で設定対象へ移動します。
④［ダイヤル］で、時刻を選択します。
⑤［UP]、[DOWN］で希望のメニューへ移動します。
⑥ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT］で確定してメニューを終了します。
⑦ 操作を取り消す場合は、[EXIT］です。

18.2.2 ON TIMER 音源設定

ON TIMER 起動時の音声出力の音源を設定します。

基本事項

①音源　　：RADIO、BEEP があります。
　　RADIO は、受信電波が音声出力になります。
　　BEEP は、内部のビープ音が音声出力になります。
②音源の選択　：［ダイヤル］
③確定　　：［ENT］
④操作取り消し：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① ［FUNC+L］+［9］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で ON TIMER 音源設定メニューへ移動します。
② ［ダイヤル］で、音源を選択します。
③ ［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

18.2.3 ON TIMER 音量設定

ON TIMER 起動時の音声出力の音量を設定します。

基本事項

①音量の設定　：［ダイヤル］
②確定　　：［ENT］
③操作取り消し：［EXIT］、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① ［FUNCL］+［9］でトップメニューへ移行して、続けて［UP］、［DOWN］で ON TIMER 音量設定メニューへ移動します。
② ［ダイヤル］で、ボリューム値を選択します。
③ ［UP］、［DOWN］で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、［ENT］で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、［EXIT］です。

18.2.4 ON TIMER スケルチ設定

ON TIMER 起動時のスケルチを設定します。

基本事項

①スケルチの設定：[ダイヤル]
②確定　　：[ENT]
③操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① [FUNCL] + [9] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で ON TIMER スケルチ設定メニューへ移動します。
② [ダイヤル] で、スケルチ値を選択します。
③ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
④ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑤ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

18.3 OFF TIMER の設定

設定時刻になったら、自動で待機状態に移行する機能です。

OFF 時刻の設定

基本事項

①表示形式　　：24 時間
②ON/OFF 切り替え：[PASS]
③時分秒の選択　：[4][6]
　[4] は、設定対象を左方向へ移動します。
　[6] は、設定対象を右方向へ移動します。
④時刻の設定　　：[ダイヤル]
⑤確定　　：[ENT]
⑥操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

操作

① [FUNCL] + [9] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で OFF 時刻設定メニューへ移動します。
② [PASS] で、ON/OFF を切り替えます。
③ [4]、[6] で設定対象へ移動します。
④ [ダイヤル] で、時刻を選択します。
⑤ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
⑥ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑦ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

18.4 SLEEP TIMER の設定

設定時間を経過したら、自動で待機状態に移行する機能です。

SLEEP 時間設定

基本事項

①範囲　　：1～120 分
②ステップ　　：1 分
③ON/OFF 切り替え：[PASS]
④時間の設定　　：[ダイヤル]
⑤確定　　：[ENT]
⑥操作取り消し　：[EXIT]、操作を取り消してメニューへ移行する直前の画面に戻ります。

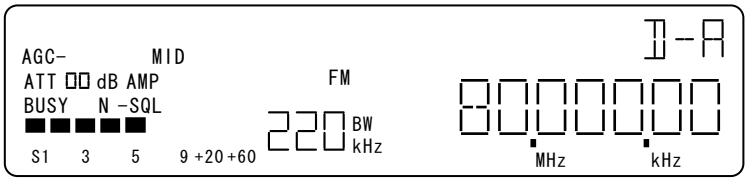
操作

① [FUNCL] + [9] でトップメニューへ移行して、続けて [UP]、[DOWN] で SLEEP TIMER 時間設定メニューへ移動します。
② [PASS] で、ON/OFF を切り替えます。
③ [ダイヤル] で、時間を選択します。
④ [UP]、[DOWN] で希望のメニューへ移動します。
⑤ 他のメニューの設定が必要なければ、[ENT] で確定してメニューを終了します。
⑥ 操作を取り消す場合は、[EXIT] です。

19 起動時の、キーの二重操作

19.1 ダイヤル（VFO）の初期化

①［EXIT］を押したまま、［PWR］を操作します。
②ダイヤル（VFO）の初期値で電源 ON になります。
③初期値は、表４を参照してください。



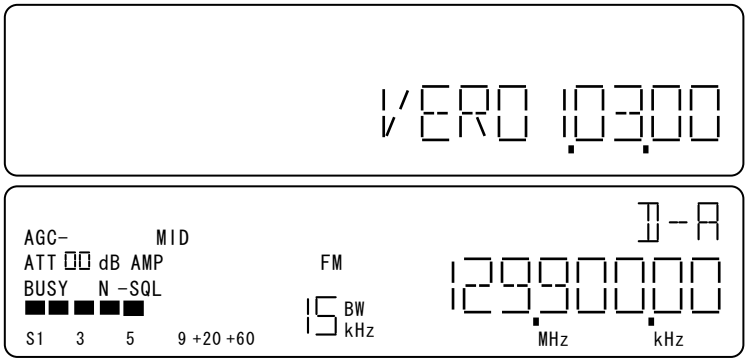
EXIT を押したまま PWR

ダイヤル（VFO）の初期値　　表４

No	項目		設定内容
1	動作モード		ダイヤル（VFO）　VFO#：A
2	受信周波数		80.000MHz
3	ステップ周波数		100kHz
4	復調モード		ＦＭ
5	IFBW		220kHz
6	HPF	オーディオ	0.05kHz
7	LPF		20.0kHz
8	DEMP		75uS
9	AGC		MID
10	RF-AMP		ON
11	RF-ATT		OFF
12	LSQ		OFF
13	LAMP	システム環境	ON
14	BEEP		ON
15	IFOUT		1
16	BPS		115.2kbps
17	STD		INT
18	S-M		RSSI
19	DISP		RSSI
20	TD		DIS
21	VI	オプション	OFF
22	TE		OFF

19.2 ファームウェア・バージョン表示

①［・］を押したまま、［PWR］を操作します。
②ファームウェア・バージョン表示中に、［PWR］を操作すると通常の電源 ON になります。



ファームウェア・バージョン表示画面

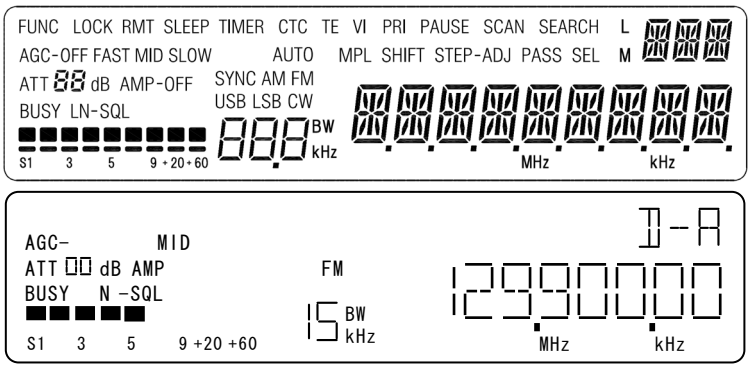
［・］を押したまま［PWR］

［PWR］

通常の電源 ON（起動）画面

19.3 ディスプレイ全点灯

①［0］を押したまま、［PWR］を操作します。
②ディスプレイ全点灯中に、［PWR］を操作すると通常の電源 ON になります。



ディスプレイ全点灯画面

［0］を押したまま［PWR］

［PWR］

通常の電源 ON（起動）画面

20 アフターサービス

20.1 保証書について

（1）この製品には、保証書がついています。
（2）保証書は、「販売店名、お買い上げ年月日」等の記入事項をご確認のうえ、販売店からお受け取りください。
（3）保証書は、保証内容をよくご確認のうえ大切に保管してください。

20.2 保証について

（1）この製品の保証期間は 1 年間です。
（2）使用上の誤り等による故障の場合には、保証期間内でも有料修理となることがあります、詳しくは保証書をご覧ください。

20.3 修理を依頼されるとき

（1）保証期間中の場合
- お買い上げの販売店に保証書を添えてご依頼ください。
- 保証規定にしたがって修理させていただきます。

（2）保証期間経過の場合
- お買い上げの販売店にご相談ください。
- 修理することにより機能を維持できる製品の場合には、お客様のご希望により有料で修理させていただきます。

20.4 アフターサービスについて

（1）ご不明な点は、お買い上げの販売店又は弊社サービス窓口にお問い合わせください。

21 定格

定格（1/2）

<table>
<tr><td>1</td><td>受信周波数範囲</td><td>5kHz－3650MHz</td></tr>
<tr><td>2</td><td>復調モード（電波型式）</td><td>FM／AM／USB／LSB／CW</td></tr>
<tr><td>3</td><td>受信方式</td><td>トリプルスーパーヘテロダイン方式</td></tr>
<tr><td>4</td><td>中間周波数</td><td>1st IF：746MHz（受信周波数＜2010MHz）
：374MHz（受信周波数≧2010MHz）
2nd IF：10.7MHz
3rd IF：455kHz</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ステップ周波数</td><td>任意設定：1Hz～999.999kHz
プリセット値
1Hz／10Hz／50Hz／100Hz／500Hz／1kHz／5kHz／6.25kHz／8.3kHz／9kHz／10kHz／12.5kHz／20kHz／25kHz／30kHz／50kHz／100kHz／500kHz</td></tr>
<tr><td>6</td><td>周波数分解能</td><td>最小　1Hz</td></tr>
<tr><td>7</td><td>周波数安定度</td><td>≦±1.0ppm　@-10℃～55℃</td></tr>
<tr><td>8</td><td>アンテナ入力</td><td>BNC×1、インピーダンス 50Ω、RF 最大入力レベレ+20dBm</td></tr>
<tr><td>9</td><td>受信感度</td><td>
<table>
<tr><td>10kHz－40kHz</td><td>-85dBm</td><td>CW 12dB SINAD</td></tr>
<tr><td>40kHz－150kHz</td><td>-97dBm</td><td>CW 12dB SINAD</td></tr>
<tr><td>150kHz－500kHz</td><td>-107dBm</td><td>CW 12dB SINAD</td></tr>
<tr><td>500kHz－2.5MHz</td><td>-104dBm</td><td>AM 10dB S/N</td></tr>
<tr><td>2.5MHz－30MHz</td><td>-110dBm</td><td>AM 10dB S/N</td></tr>
<tr><td>30MHz－3400MHz</td><td>-117dBm</td><td>FM 12dB SINAD</td></tr>
<tr><td>3400MHz－3500MHz</td><td>-115dBm</td><td>FM 12dB SINAD</td></tr>
<tr><td>3500MHz－3600MHz</td><td>-112dBm</td><td>FM 12dB SINAD</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>10</td><td>NF</td><td>≦14dB　10dB typ　@AM BW=7kHz,AGC=OFF</td></tr>
<tr><td>11</td><td>相互変調歪</td><td>
<table>
<tr><th>受信周波数</th><th>ダイナミックレンジ</th><th>IP2</th><th>IP3</th><th>内臓
プリアンプ</th></tr>
<tr><td>2.6MHz</td><td>88dB</td><td>+40dBm</td><td>+14dBm</td><td>off</td></tr>
<tr><td>2.6MHz</td><td>88dB</td><td>+12dBm</td><td>+2dBm</td><td>on</td></tr>
<tr><td>14.1MHz</td><td>90dB</td><td>+34dBm</td><td>+30dBm</td><td>off</td></tr>
<tr><td>14.1MHz</td><td>88dB</td><td>+10dBm</td><td>+7dBm</td><td>on</td></tr>
<tr><td>122.9MHz</td><td>88dB</td><td>+63dBm</td><td>+3dBm</td><td>on</td></tr>
<tr><td>434.9MHz</td><td>88dB</td><td>+81dBm</td><td>+5dBm</td><td>on</td></tr>
<tr><td>650.9MHz</td><td>88dB</td><td>+72dBm</td><td>+4dBm</td><td>on</td></tr>
<tr><td>950.9MHz</td><td>89dB</td><td>+76dBm</td><td>+5dBm</td><td>on</td></tr>
<tr><td>1280.9MHz</td><td>90dB</td><td>+43dBm</td><td>+7dBm</td><td>on</td></tr>
<tr><td>2400.9MHz</td><td>85dB</td><td>+36dBm</td><td>0dBm</td><td>on</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>12</td><td>位相ノイズ</td><td>≦-75dBc/Hz　@0.1kHz　-82dBc/Hz typ
≦-80dBc/Hz　@1kHz　-90dBc/Hz typ
≦-90dBc/Hz　@10kHz　-95dBc/Hz typ
≦-110dBc/Hz @100kHz　-115dBc/Hz typ
≦-130dBc/Hz @1MHz　-138dBc/Hz typ</td></tr>
</table>

定格（2/2）

13	スプリアスレスポンス	70dB 以上　80dB typ
14	イメージ妨害比	70dB 以上　80dB typ
15	内部スプリアス	-107dBm 以下（アンテナ端子換算）
16	サーチ，スキャン速度	サーチ　：Max 125 ステップ/秒、　Min 100 ステップ/秒 スキャン：Max 125ch/秒、　　Min 100ch/秒
17	IF 出力	10.7MHz(BW=10MHz)／10.7MHz(IF フィルタ通過)／455kHz(IF フィルタ通過)のいずれかを選択できます。
18	リアルタイムクロック精度	±20 秒/月　@常温
19	メモリチャンネル	1000ch（100ch×10 バンク）
20	サーチバンク	20
21	定格規定温度範囲	0℃～+50℃
22	動作可能温度範囲	-20℃～+70℃
23	電源電圧	DC 11V～15V
24	消費電流	最大：約 970mA（DC IN=12V）　　スタンバイ：約 25mA
25	低周波出力	1W（8Ω）@10%歪率/外部スピーカ出力端子
26	基準周波数入力レベル	10MHz：　-5dBm～+3dBm　　推奨値：-3dBm　　Min（-13dBm） 20MHz：-17dBm～+3dBm　　推奨値：-15dBm　　Min　（-27dBm）
27	本体寸法	131（W）× 80（H）× 224（D）mm
28	重量	1.7kg

● 本機の定格および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

株式会社ウエーブテック　WAVETECH Ltd.
〒146-0095
東京都大田区多摩川 1-15-3 204　TEL (03) 6715-5835

Printed in Japan　　2013　第 1 版